

目次

郡山市立美術館年報 令和2年度

目次

I	沿革・郡山市立美術館の目的と性格	2
II	展覧会事業	3
	1) 常設展	4
	2) 企画展	20
III	教育普及事業	40
	1) 講演会	40
	2) 美術講座	40
	3) 文化講座	40
	4) ミュージアム・シアター	41
	5) ミュージアム・コンサート	41
	6) オンライン・アートライブ	41
	7) 学校との連携事業	41
	8) 対外協力	42
	9) 刊行物	42
	10) 館外での活動及び関連記事・報道	43
IV	作品収集・保存管理事業	44
	1) 新収蔵作品・美術資料一覧	44
	2) 収蔵作品貸出状況	47
	3) 収蔵作品修復状況	49
V	利用者数	52
	1) 展覧会	52
	2) 教育普及事業	53
	3) 過去5年間の利用者数の推移状況	53
	4) 教育普及事業別参加者数の推移状況	54
VI	管理運営	55
	1) 関係法規	55
	2) 名簿・組織	59
	3) 建築設備概要・平面図・面積表	60
	4) 利用案内	64

I 沿革・郡山市立美術館の目的と性格

沿革

1981（昭和56）年 9 月	美術館建設懇談会設置
1982（昭和57）年 2 月	美術館基本構想懇話会設置
1983（昭和58）年 3 月	「郡山市美術館基本構想」答申
1985（昭和60）年12月	美術品取得基金条例公布・施行
1987（昭和62）年 4 月	美術館建設準備室設置
1987（昭和62）年 6 月	郡山市立美術館建設検討委員会設置
1988（昭和63）年 1 月	美術館建設場所決定
1989（平成元）年11月	美術館建設設計競技審査会開催
1990（平成2）年 1 月	収蔵美術品特別展示開催（於：郡山市民文化センター） （株）TAK建設・都市計画研究所の設計案当選（同社に設計を委託）
1990（平成2）年 3 月	美術館建設基本設計完了
1990（平成2）年10月	美術館建設実施設計完了
1990（平成2）年12月	美術館建設工事着工
1992（平成4）年 6 月	美術館建設本体工事完了
1992（平成4）年 7 月	郡山市立美術館条例施行 美術館建設準備室を解散して美術館としてスタート
1992（平成4）年11月	美術館建設外構工事完了 11月21日 美術館開館
1994（平成6）年	第35回BCS建築賞
1998（平成10）年	公共建築百選
2017（平成29）年10月 1 日	改修工事のため休館
2018（平成30）年 7 月 7 日	再オープン

郡山市立美術館の目的と性格

郡山市立美術館は、「市民がすぐれた美術作品に接することにより美術文化に対する深い理解と親しみを持ち、より豊かな市民生活を享受できる場とするとともに、郷土ゆかりの美術作品、国際的視野と高い水準をもった美術作品及び美術資料を収集・保存・展示して市民文化の向上を図る」という構想のもとに建設が計画された。

作品の収集は、①イギリス近代美術、②日本近代美術、③郷土ゆかりの美術、④本（版）の美術という柱をもっておこなわれている。特にイギリス近代美術について、体系的に収集したコレクションはこれまでの国内の美術館においても例を見ないもので、内外の大きな評価を得ている。

今後についても、この特色あるコレクションの一層の充実を図りつつ、調査研究、展示、教育普及など多彩な活動をおこなっていく。

また、郡山市街から安達太良山までを一望できる緑豊かな丘陵地の自然を背景とした恵まれた立地条件を十分に生かし、多くの方々にやすらぎを与える場とするために、整備していく。

II 展覧会事業

(令和2年4月20日～令和2年5月15日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館)
(令和3年2月14日 福島県沖地震の影響により臨時休館)
(令和3年3月8日～令和3年3月31日 諸設備点検等のため臨時休館)

1) 常設展

前年度第4期 令和2年4月1日～令和2年4月19日

展示室1：小特集：来日したイギリスの画家たち
展示室2：大正・昭和—日本洋画の青春期
展示室3：現代美術の表現
展示室4：①ブレイクとパーマー
②ガラスの造形

第1期 令和2年5月16日～令和2年7月19日

展示室1：イギリスの風景画
展示室2：日本人画家の肖像
展示室3：日本の前衛美術 1950-1960代を中心に
展示室4：①版画・いろいろ
②やきもの鑑賞

第2期 令和2年7月22日～10月18日

展示室1：イギリス美術の流れ
展示室2：近代洋画の金字塔
展示室3：戦後の美術潮流と郡山
展示室4：①明治以降の版画
②ドレッサーの芸術 東西の美

第3期 令和2年10月21日～令和3年1月24日

展示室1：19世紀末イギリス美術
展示室2：原撫松と牧野義雄
展示室3：郷土ゆかりの美術
展示室4：①本美術・日本篇
②美と用の調和

第4期 令和3年1月27日～3月7日

展示室1：小特集：イギリスの挿絵
展示室2：人物を描く
展示室3：グラフィック・アートの魅力
展示室4：①ショーラムのエインシャンツ
②工芸のデザイン

2) 企画展

令和2年(3月1日)～4月19日

石田智子展 雑華—ありのままに

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。※令和2年4月29日～6月14日)

「無言館」展 遺された絵画からのメッセージ

令和2年6月27日～8月23日

うるわしき美人画の世界 —木原文庫より—

令和2年8月29日～9月27日

郡山の美術「今昔秘話展」～雪村を中心に～

令和2年10月10日～11月23日

日本ガラス工芸の先達たち—藤七、鑛三、そして潤四郎

令和2年12月12日～令和3年3月7日

(令和3年2月14日は福島県沖地震の影響により臨時休館)

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術

1) 常設展

令和2年度 第1期 令和2年5月16日～令和2年7月19日

展示室1 イギリスの風景画

イギリスでは、18世紀後半から19世紀にかけて風景画が大きく発展しました。18世紀後半にイギリスに広がった「ピクチャレスク」の美学は、風景に対する人々の意識を大きく変えることとなります。なめらかで整った「美」に対し、荒々しさや不規則性などに美的価値を認める「ピクチャレスク」の感性によって、画家たちは次々に風景

をとらえていきました。また同時期、画材の発展に後押しされ、独立した絵画のジャンルとして確立された水彩画は、風景表現の幅をさらに広げました。

豊かな自然に恵まれた風土の中で、自然を愛する画家たちによって育まれた風景画の数々をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ポール・サンドビー	ラン・エガート修道院またはクルーズ渓谷とダイナス・プラン城	1776	アクアチント、エッチング・紙
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790年代初頭	水彩・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790代	水彩・紙
トマス・ガーティン	テュイルリーの眺め		エッチング、アクアチント・紙
ジョン・クローム	マウスホルド・ヒース、ノリッジ	1810頃	エッチング・紙
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-6頃	油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7	メゾチント・紙
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ビュセル広場のブルトルド館	1823	水彩・紙
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ラインエングレーヴィング・紙
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コラー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 日本人画家の肖像

肖像画は洋の東西を問わず、画家にとって重要なテーマです。日本では中国の影響を受けながら、高僧、貴族、武將の肖像画が伝統的に描かれてきました。明治時代になると、従来の日本画表現に西欧風の写実的な技法を折衷する画家が現れ、そのリアルな絵画は驚きをもって迎えられました。写真印刷の普及以前、皇族や政治家の姿を広く伝える役割は版画が担い、江戸時代末に渡来した石版

画が活用されます。

明治期までは依頼を受けて作られる肖像画が中心でしたが、大正期に入ると画家の意志による肖像画が多く登場します。自画像や親しい人物の肖像には、姿かたちだけでなくモデルの内面や画家との関係性までもが描きだされています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
松尾秀山	西洋人物図		墨・紙／対幅
高橋由一	明治天皇・皇后尊影	1892(明治25)	水彩・絹／対幅
内田九一	大日本帝国両陛下御尊影	1873(明治6)	写真
結城正明	大日本帝国両陛下御尊影	明治10代頃	銅版・紙
鹿子木孟郎	馬上の陛下	1905(明治38)	石版・紙
合田 清	合資商報会社(印刷)『日出新報』明治38年1月1日第6334号付録 独逸皇帝フレデリック三世之肖像 『横浜毎日新聞』明治21年6月22日第5253号付録	1888(明治21)	木口木版・紙
岡村政子(推定)	板垣伯之肖像 『時事新報』明治24年6月8日第3044号付録	1891(明治24)	石版・紙
床次正精/山下房親	西郷隆盛肖像	1887(明治20)	石版・紙
山本芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
五姓田義松	園田御令嬢肖像(園田銚像)	1902(明治35)	コンテ・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
原 撫松	横山孫一郎像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
原 撫松	横山勇子像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
林 重義	顔(自画像)		油彩・キャンバスボード
小出植重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス
岸田劉生	男之像	1919(大正8)	水彩・紙
木村荘八	祖母の顔	1916(大正5)	油彩・板
横井弘三	料治朝鳴氏の家族	1940(昭和15)頃	油彩・合板
木村荘八	中島君の像	1916(大正5)	水彩・紙
川幡正光	徳坊	1918(大正7)	油彩・板
松山忠三	松山夫人、ホームウッドにて	1923(大正12)	水彩・紙

展示室3 日本の前衛美術 1950—1960代を中心に

第二次世界大戦後、人々は未曾有の人為的破壊や喪失への反省と、精神的ダメージからの回復を目指し、新しい社会のあり方を模索しました。日本の美術界においても、戦中の抑圧から解放された美術家たちが、真の表現の自由を求めて様々な表現の可能性を試みます。1950年代から60年代にかけては、海外の前衛的な美術表現が紹介されて大きな反響を呼ぶなど、美術界においても本格

的な国際化の時代を迎えました。また、美術家たちにとって、紛争や高度経済成長に起因する社会矛盾も大きな関心のひとつとなりました。社会を見据えながら、社会といかに関わり、美術家としてどう表現するか。そうした制作者の真摯な姿勢に裏打ちされた作品は、今を生きる私たちにも多くを語りかけてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
浜田知明	初年兵哀歌(山を行く砲兵隊)	1953(昭和28)	エッチング、アクアチント・紙
高山良策	無題2	1962(昭和37)	鉛筆、クレヨン・紙
高山良策	無題3	1962(昭和37)	鉛筆、クレヨン・紙
鎌田正蔵	「アリス・ハーズ夫人に捧ぐ」より	1969(昭和44)	フェルトペン、アクリル、インスタントレタリング・紙 鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	廃坑	1956(昭和31)	油彩・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
難波田龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
佐藤 敬	石の対話	1958(昭和33)	油彩・キャンバス
堂本尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962(昭和37)	油彩・キャンバス
今井俊満	コンポジション23	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
土橋 醇	小さな村	1955(昭和30)	油彩・キャンバス
瑛九	構図	1957(昭和32)	エアブラシ・合板 武田光司コレクション寄贈
村井正誠	いそぐ人	1956(昭和31)	油彩・キャンバス
オノサト・トシノブ	64-G	1964(昭和39)	リトグラフ・紙
巖 諷	テル・ミー・ナウ	1966(昭和41)	シルクスクリーン・紙
山口長男	カラージュ I	1950-51(昭和25-26)頃	カラージュ・紙
山口長男	カラージュ II	1950-51(昭和25-26)頃	カラージュ・紙
斎藤 清	HANIWA(2)	1951-54(昭和26-29)頃	木版・紙
斎藤 清	青沼、裏磐梯、会津	1955(昭和30)	木版・紙
駒井哲郎	コレクション・ド・ラ・メール1,2		水彩・紙
駒井哲郎	鳥と果実(小)	1959(昭和34)	エッチング、サンドペーパーによるエッチング・紙
斎藤寿一	波と月(B)	1964(昭和39)	ディープエッチング・紙 斎藤聡子氏寄贈
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
片多徳郎	残雪の庭	1925(大正14)	油彩・キャンバス

展示室4 ① 版画・いろいろ

版画は版に絵柄を施し、紙などに写し取る方法によって作られます。複数性があるため、版画は本の挿絵をはじめ、古くからいろいろな用途に使われてきました。

版種には木版、銅版、石版、シルクスクリーンなど様々あり、技法も多岐にわたっています。近代以降には、そ

れぞれの性質を生かした版による芸術表現が開き、個性を競いました。

今回は、当館の版画のコレクションから幅広いジャンルの作品をご紹介します。多種多様な「版」の世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック	野生の牝牛	1789	木口木版・紙
フレデリック・レイトン	帰宅		木口木版・紙
フレデリック・レイトン	流れゆく	1889	木口木版・紙
ロバート・ギビングス	チューリップ	1922	木口木版・紙
エリック・ギル	『木版画集』	1924	木口木版・紙/本
ウィリアム・ホガース	性格と戯画	1743	エッチング・紙
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント・紙
サミュエル・パーマー	囲いを開く(早朝)	1880	エッチング・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	バルコニー、アムステルダム	1889	エッチング・紙
スタンリー・ウィリアム・ヘイター	緑陰	1963	エッチング、スクレイパー・紙
ロバート・ベヴァン	バービカンの馬商人(バービカンNo.2)	1921	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B	1976	リトグラフ・紙
山本芳翠(画)、合田 清(刻)	磐梯山噴火真図 『東京朝日新聞』明治21年8月1日 第1095号付録	1888(明治21)	木口木版・紙
柄澤 齋	『死と変容I 夜』	1988(昭和63)	木口木版・紙
吉田 博	神の島	1930(昭和15)	木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929(昭和14)	木版・紙
吉田穂高	私のコレクションよりー白い家、N	1979(昭和54)	木版・紙
長谷川潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙
中林忠良	転位'90ー地ーI	1990(平成2)	エッチング、アクアチント・紙
東谷武美	ペビーノの実	1988(昭和63)	リトグラフ・紙
斎藤義重	ベンチ	1968(昭和43)	シルクスクリーン・紙
木村利三郎	City 386	1985(昭和60)	シルクスクリーン・紙

展示室 4-② やきもの鑑賞

私たちの生活の中で身近にあるやきものといえば、毎日使う食器や花瓶などでしょうか。土をこねて造形し、火で焼き固めたやきものは、土の成分や焼く温度などの違いで表情が変わり、産地ごとにブランドとして区別されることもあります。絵付けや釉薬もさまざまな表情を与えてくれる要素です。

今回は、所蔵作家でイギリス人工芸デザイナーのクリ

ストファー・ドレッサーの作品の中から、やきもの作品をご紹介します。金属器のデザインでよく知られるドレッサーですが、ミントンやウェッジウッドなど現代まで続くイギリスを代表するブランドのデザインも手がけています。美しい器に何を盛り付けるか、想像しながらご覧いただくのも楽しいのではないのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	青緑釉水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差(一対)	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地線文把手付花瓶(一対)	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風裝飾文皿	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉山羊面四耳壺	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	水差「ラクダの背」	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩花模様水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル(サーバー付き)	1879-82頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶(一対)	1886	陶器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
木内 克	露柱	1976(昭和51)	テラコッタ
西 常雄	藤原義江像	1971(昭和46)	ブロンズ
柳原義達	黒人の女	1956(昭和31)	ブロンズ
高田博厚	アラン像	1932(昭和7)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第1期 常設展示室1



第1期 常設展示室2



第1期 常設展示室3



第1期 常設展示室4

展示室1 イギリス美術の流れ

イギリス近代美術は、当館コレクションの大きな特徴のひとつです。18から19世紀には、油彩による肖像画や風景画とともに、イギリスで特に発展した水彩画が盛んに描かれました。肖像画ではイギリス貴族の華やかな衣装と優雅なまなざし、油彩や水彩による風景画では、鋭い観察眼と確かな画面構成による豊かな自然表現が楽しめます。また、19世紀後半から20世紀初頭に活躍した、

日本とも関わりのある画家の作品を展示します。

当館では平成29、30年度の休館期間を中心に、展示機会の多い作品の修復作業を行いました。作品の状態を調査し、極力劣化を避けて美しいまま後世に伝えることは美術館の大切な使命です。今回は修復の成果とその過程の調査で判明したことの一部をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス渓谷		水彩・紙
ポール・サンドビー	ウォリック城シーザー塔	1778-82	水彩、インク・紙
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホワイトボディカラー・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コニストンの荒地	1797頃	水彩、鉛筆・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	メッドウェイ川沿いのロチェスター	1826	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
サー・フランク・ブランギン	エリザベス女王の乗船を待つゴールデン・ハインド号	1903-5頃	油彩・キャンバス 畑中俊彦氏寄贈
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870代	油彩・スケッチボード
サー・アルフレッド・イースト	スウェル川のほとり		油彩・キャンバス 佐藤克也氏寄贈
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板

展示室2 近代洋画の金字塔

狩野派や漢画に学び洋風画家へ転向した司馬江漢は、西洋の技術を日本にもたらす先駆けとなった一人です。日本の本格的な油彩画は、幕末明治に来日したイギリス人画家ワーグマンに学んだ高橋由一、五姓田義松らによって黎明期を迎えます。そしてイタリア人画家フォンタネージに師事した浅井忠、フランス留学から帰国した黒田清輝らは東京美術学校(現在の東京藝術大学)で教鞭

を執り後進の育成に励みました。東京美術学校の画家とは対照的に、三宅克己、吉田博、中川八郎らは独力で米欧に渡り、当地の展覧会で大成功を収めています。大下藤次郎は『みづゑ』を創刊し、水彩画の普及に貢献しました。さらに大正から昭和期に画壇を牽引した名立たる画家、またパステル、テンペラで功績を挙げた画家をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
司馬江漢	飛鳥山図	寛政後期	油彩・絹
高橋由一	風景(鳥海山)	1880代	油彩・キャンバス
五姓田義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26)頃	油彩・紙、板
和田英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
岸田劉生	照子像	1920(大正9)	水彩・紙
小出楯重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス
梅原龍三郎	静物		油彩・キャンバス
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
古賀春江	蝸牛のいる田舎	1928(昭和3)	油彩・キャンバス
北川民次	アメリカ婦人とメキシコ女	1935(昭和10)	テンペラ・板
武内鶴之助	庭		パステル・紙
矢崎千代二	モンマルトル	1921-26(大正10-15)	パステル・紙
大下藤次郎	晩秋	1908(明治41)	水彩・紙
三宅克己	ブルージュ	1910(明治43)	水彩・紙
石川欽一郎	牛荘(Newchwang)		水彩・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
中川八郎	秋の河辺		水彩・紙
鹿子木孟郎	水車小屋		水彩・紙
吉田 博	滞船、薄暮	1907(明治40)頃	水彩・紙

展示室3 戦後の美術潮流と郡山

郡山市は、戦後の美術において目覚ましい展開を見せました。

1946(昭和21)年に安藤重春らが開催した「郡山美術展覧会」は、戦後開催された地方の公募展としてはかなり早い例でした。1948(昭和23)年に鎌田正蔵、佐藤昭一らによって結成された福島県新美術連盟は、後に「新作家グループ」となって、福島県の前衛美術をリードする団

体になります。1950(昭和25)年に県南美術協会が結成されると郡山周辺のアートはより活況を呈し、その翌年には地方で最初の「平和のための美術展」が郡山市公会堂で開催され、全国から注目を集めました。

今回はこのように先鋭的な活動を行った戦後の郡山市ゆかりの作家たちを紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
青津清喜	窓際	1950(昭和25)	油彩・キャンバス	
水田荘介	青衣の女	1964(昭和39)	油彩・キャンバス	
芳賀忠行	虚構の風景一城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	飢える人	1952(昭和27)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	食事	1952(昭和27)	油彩・板	佐藤昭一氏寄贈
佐藤昭一	シリーズ人間—Sさんのトマト—	1979(昭和54)頃	油彩、アクリル・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舎利小容器(試作)		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人(2点組)		金工(鍛鉄)	大方竜子氏寄贈
安部直人	Anonymous I	1995(平成7)	エッチング、メゾチント・紙	
岩谷 徹	能シリーズ15—水	1990(平成2)	メゾチント・紙	
土橋 醇	星雲	1963(昭和38)	油彩・キャンバス	
黒沢吉蔵	大和箸中	1980(昭和55)	岩絵具・紙	
安藤重春	雨の華	1979(昭和54)	岩絵具・紙	
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
佐藤静司	街の詩	2006(平成18)	木	佐藤静司氏寄贈
折笠兆春	黄雲	1995(平成7)	乾漆	折笠兆春氏寄贈

展示室4 ① 明治以降の版画

西洋からもたらされた銅版画は、江戸時代に地図や解剖図など実用的な面で発達し、明治期になると、紙幣や証紙にも使われるようになりました。

木版画は、江戸時代に浮世絵として人気を博しましたが、明治期になると石版の台頭で廃れていきます。やがて明治末には自画自刻自摺の創作版画が生まれまし

た。すると、大正期にはそれに対抗するかのようになり、絵師・彫師・摺師の三者による浮世絵の伝統を復活させようとする新版画も制作されるようになりました。

今回は、明治時代の銅版画と石版画、そして大正時代以降の新版画と、様々な技法による創作版画をそれぞれ見ていきましょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●明治の版画：銅版画と石版画			
亜欧堂田善	『新鐫総界全図 付・日本辺界略図』	1809(文化6)	銅版・紙/卷子
青野桑州	『布列私解割図 完』(中筑裁記、青野桑州錢毫、思々齋蔵版)	1872(明治5)	エッチング・紙/本
松田緑山(二代目玄々堂)	「大日本政府 舊公債証書」金參百圓	1872(明治5)	エングレイヴィング・紙
松田緑山(二代目玄々堂)、梅村翠山他	一銭印紙	1872-74(明治5-7)	エングレイヴィング・紙
エドアルド・キヨソネ	日本銀行兌換銀券 壹圓	1888(明治21)	エングレイヴィング・紙
エドアルド・キヨソネ	大日本帝國政府 地券	1875(明治8)	エングレイヴィング・紙
亀井至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版、手彩色・紙
亀井至一	芸妓之図	1882(明治15)	石版、手彩色・紙
亀井至一	美人	1894(明治27)	石版・紙 秋本倫子氏寄贈
	『時事新報』明治27年9月5日第4066号付録		
結城正明	ヒポクラテス像(L.マッサード原画による)	1877(明治10)	エングレイヴィング・紙/軸
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治22)	エングレイヴィング・紙
●新版画			
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928(昭和3)	木版・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
石川寅治	琉球の市場		木版・紙
石川寅治、中川八郎、中沢弘光、安田稔	『新領土みやげ』(金尾文淵堂刊)	1917(大正6)	木版・紙/ポर्टフォリオ
安井曾太郎	画家とモデル、椅子に凭れる女、レコードを聴く人	1932-34(昭和7-9)	木版・紙/ポर्टフォリオ
	『安井曾太郎版画集』(石原求龍堂刊)		
●創作版画			
恩地孝四郎	Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル“道化師の朝歌”	1933(昭和8)	木版・紙
谷中安規	鍵(詩画集の8)	1933(昭和8)	木版・紙
斎藤 清	漁村の女(北海道)(『日本女俗選』より)	1946(昭和21)	木版・紙
福田利秋	漁網修理(1)-(3)	1978(昭和53)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
岩越二郎	おぼばこ	1924(大正13)	木版・紙
	『HANGA 第四輯』(版画の家刊、木版・紙/ポर्टフォリオ)表紙		
岩越二郎	向日葵	1925(大正14)	ボール版・紙
	『HANGA 第八輯』(版画の家刊、木版・紙/ポर्टフォリオ)		
岩越二郎	年賀状	1932(昭和7)	木版・紙
	『版芸術 第九号 年賀状百人集』(白と黒社刊、木版・紙/本)		

展示室4-② ドレスラーの芸術 東西の美

クリストファー・ドレスラー(1834-1904)は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、イギリスを中心にモダン・デザインの先駆けとなる重要な仕事を残したデザイナーです。

明治9(1876)年、ドレスラーは、イギリスから日本へ寄贈される美術工芸品約300点を携えて来日しました。4ヶ月にわたる日本滞在中、彼は様々な美術工芸品の生産地を訪れ、当時の日本の殖産興業政策にも貢献しまし

た。帰国後は、日本の建築や美術工芸品について本にまとめてヨーロッパに紹介し、さらにそれを自身のデザインにも昇華させたのです。

西洋の伝統的な装飾の概念にとらわれることなく、日本をはじめ外国の工芸品研究から得た自由な発想によって、ドレスラーは独創的で洗練されたデザインの数々を生み出しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレスラー	トースト・ラック(ポイントアーチ型)	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	トースト・ラック(青海波)		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	クラレット・ジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	デカンター・セット(栓付き細首ぶどう酒瓶)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	瓶(茶色クルーサー・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	花瓶(緑色クルーサー・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	プロペラ瓶(緑色クルーサー・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	花瓶(赤色クルーサー・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	ローマン瓶(緑色クルーサー・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器
クリストファー・ドレスラー	緑釉人物文扁壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレスラー	緑釉龍波濤文水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレスラー	色絵椿文龍花瓶(一対)	1886	陶器
クリストファー・ドレスラー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレスラー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレスラー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレスラー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレスラー	色絵金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレスラー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレスラー	橋型二重注口人面壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレスラー	彩釉和風花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレスラー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器
クリストファー・ドレスラー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレスラー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
【資料】クリストファー・ドレスラー著	『日本-その建築、美術、工芸』	1882	本

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
木内 克	露柱	1976(昭和51)	テラコッタ
西 常雄	藤原義江像	1971(昭和46)	ブロンズ
柳原義達	黒人の女	1956(昭和31)	ブロンズ
高田博厚	アラン像	1932(昭和7)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第2期 常設展示室1 見学風景



第2期 常設展示室2 鑑賞風景

展示室1 19世紀末イギリス美術

19世紀後半のヴィクトリア朝のイギリス美術には、全盛期を迎えた近代イギリスの社会状況が色濃く反映されています。世界的な繁栄の陰で、イギリス国内では都市部を中心に公害や貧困などの社会問題が生じ、人々の間にある種の閉塞感が蔓延していました。

そうした中で当時の美術家たちは、ギリシャ・ローマ

などの古典芸術や文学作品、東洋世界などに憧憬と関心を高め、創作の源泉としました。彼らは現実と夢を紡ぐ豊かな想像力を発揮する一方で、装飾性や審美性に特化した表現を追求しています。それは物質社会への内なる警鐘であるのと同時に、20世紀に花開く前衛的な造形表現の胎動でもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●ヴィクトリア朝の美術			
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン (オスカー・ワイルド「サロメ」挿絵「ステューディオ」創刊号 プルーフ版)	1893	ラインブロック・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ラルエット坊や	1859	エッチング・紙
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870代	油彩・スケッチボード
ウォルター・シッカート	カフェ	1914頃	油彩・キャンバス
サー・フランク・ブランギン	エリザベス女王の乗船を待つゴールデン・ハインド号	1903-5頃	油彩・キャンバス 畑中俊彦氏寄贈
サー・フランク・ブランギン	花園	1899頃	油彩・板
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	『フラワー・ブック』より「霧の中の愛」「蛇の舌」「天の梯子」 「目覚めて、愛しい人よ!」「春の鍵」「ヤコブの梯子」「白い庭」 「魔法使いの木」「ベツレヘムの星」「甘美な草花」	1905刊	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914頃	油彩・キャンバス
●イギリス近代美術			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス

展示室2 原撫松と牧野義雄

原撫松(1866-1912)と牧野義雄(1869-1956)とは、明治後期にロンドンで知り合った親友同士です。ふたりは当時主流だったフランスではなくイギリスに留学したことと、他の日本の画家たちとの交流がなかったことから、日本の近代美術史の中で語られる機会はほとんどありません。ですが、原はロンドンの美術館にある名画を模写

することで西洋画の神髄を追求した稀有な画家です。そして牧野は霧の効果を出すための独特の水彩技法を生み出し、当時の社交界の寵児とさえなりました。

今回は、彼らの作品を特集すると同時に、明治から大正期にイギリスで制作した日本人画家たちの作品も紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原 撫松	自画像		水彩・紙
原 撫松	鯉を見る少女		水彩・紙 原優子氏寄贈
原 撫松	みかん	1892(明治25)	水彩・紙
原 撫松	包丁		水彩・紙 原優子氏寄贈
原 撫松	日本髪若い女性像		水彩・紙
原 撫松	日本髪若い女性像		油彩・キャンバス
原 撫松	婦人像	1906-7(明治39-40)	水彩・紙
原 撫松	アルバートメモリアル	1906-7(明治39-40)	水彩・紙
原 撫松	日本髪女性肖像	1910(明治43)頃	油彩・キャンバス
原 撫松	横山孫一郎像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
原 撫松	横山勇子像	1899(明治32)	油彩・キャンバス
原 撫松	婦人像	1906-7(明治39-40)頃	油彩・キャンバス
原 撫松	霧の広場	1906(明治39)	油彩・キャンバス
原 撫松	奈良の夕	1911(明治44)	油彩・キャンバス
原 撫松	牧野義雄	1904-7(明治37-40)	鉛筆・紙
原 撫松	牧野義雄像	1904-7(明治37-40)	水彩・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
牧野義雄	セント・ジョン・ザ・デイヴァイン大聖堂	1924(大正13)	水彩・紙
牧野義雄	ハドソン川上流	1926(大正15)	水彩・紙
牧野義雄	夜のリージェントパーク	1928(昭和3)	油彩・キャンバス
牧野義雄	日本大使館から見たロンドン爆撃	1940(昭和15)	油彩・キャンバス
牧野義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンバス
牧野義雄(挿絵)	『神々の愛でし人』	1903刊	折本
牧野義雄(挿絵)	『ザ・カラー・オブ・ロンドン』 (W. J. ロフティ著、チャット&ウイングス社発行)	1907刊	本
牧野義雄(著・挿絵)	『日本人画工 倫敦日記』	1910刊	本
石橋和訓	男性裸像	1907(明治40)	油彩・キャンバス
武内鶴之助	英国風景		油彩・キャンバス
武内鶴之助	虹(英国牧場風景)		油彩・キャンバスボード
南 薫造	少女		水彩・紙
南 薫造	リー川	1909(明治42)	水彩・紙
高木背水	英国帝室植物園		油彩・キャンバス

展示室3 郷土ゆかりの美術

かつて郡山とその周辺に広がっていた安積原野。明治期、その荒涼地帯に猪苗代湖から通された水路、安積疏水によって土地が拓かれ、さまざまな分野の発展への礎が築かれました。文化活動も盛んになり、美術の領域においても多くの作家を輩出しています。

当館では、「郷土ゆかりの美術」をコレクションのひとつ

の柱として作品を収集してきました。県内外で活躍してきた作家たち、そして郷土の美術の発展に尽力した作家たちの多彩な作品の数々をご覧ください。

表現のしかたはそれぞれですが、彼らの過ごしたふるさとの潤い豊かな風土が、創造の根源ともなっているのかもしれない。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
安藤重春	笹	1932-37(昭和7-12)頃	岩絵具・絹 安藤重春氏寄贈
安藤重春	あんず	1932-37(昭和7-12)頃	岩絵具・絹 安藤重春氏寄贈
常盤大空	殷賦考	1962(昭和37)	岩絵具・キャンバス
青津清喜	枯れた花の静物	1951(昭和26)	油彩・キャンバス
菊地養之助	家族	1957(昭和32)	岩絵具・紙 菊地一郎氏寄贈
黒澤吉蔵	晩秋の山河	1975(昭和50)	岩絵具・紙
鎌田正蔵	魔の山	1938(昭和13)頃	油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
土橋 醇	小さな村	1955(昭和30)	油彩・キャンバス
佐藤昭一	シリーズ透過02	2002(平成14)	アクリル・キャンバス
斎藤 清	珊瑚	1955(昭和30)	木版・紙
斎藤 清	早春	1990(平成2)	木版・紙 (株)ホテルはまつ寄贈
岩谷 徹	落日一森	1985(昭和60)	メゾチント・紙
安部直人	ほおずきIV	2000(平成12)	エッチング、メゾチント・紙
三木宗策	威容抱慈(坂上田村麻呂像)	1924(大正13)	木
佐藤静司	鰯	1936(昭和11)	木
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ

展示室4 ① 本の美術・日本篇

身近で親しみやすいがゆえに、見落とされている美術作品としての本の重要性—当館では、あらためてその重要性を考え、作品収集の柱のひとつとして本(版)の美術をうたっています。

今回はコレクションから、日本近代の本を中心に展示いたします。江戸時代までに広く普及した和紙を袋綴じにした製本方法・和綴じに代わって、西洋からもたらさ

れた洋綴じによる洋装本がその後、一般的になりました。明治時代はその過渡期にあたり、内容は西洋を舞台にしていながら和装本であるベストセラー小説『佳人の奇遇』や、当時最新の印刷技術だった石版による図版を多用した和綴じの大蔵省印刷局の出版物など、ユニークな形式の本を手始めに、美しい挿絵や装丁による豊かな本の世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
大蔵省印刷局	『国華余芳 正倉院御物』	1880(明治13)	石版/本
大蔵省印刷局	『国華余芳 伊勢内外神宝之部』	1880(明治13)	石版/本
大蔵省印刷局	『国華余芳 古書之部』	1880(明治13)	写真石版/本
大蔵省印刷局	『波間の錦』	1883(明治16)	石版/本

作者名	作品名	制作年	技法・材質
大蔵省印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繡帖』巻上・下	1883(明治16)	木版／本
亀井至一	『観古図説』I、III、IV	1876、77(明治9、10)	石版、手彩色／本
下国巖之助	『観古図説』V	1877(明治10)	石版、手彩色／本
江島鴻山(銅鐫)	『開明新選道中袖鏡』	1875(明治8)	銅版／本
竹内猛虎(挿画)	『大和名所巡覧記』	1891(明治24)	銅版、木版着色／本
	『輿地誌略』(内田正雄編著)から6点	1871-80(明治4-13)	木版、銅版、石版／本
	『佳人之奇遇』(東海散土著)から7点	1886-97(明治19-30)	石版／本
水野年方(画)	『日の出島 富士の巻』口絵	1897(明治30)	木版
鈴木華邨(画)	『日の出島 蓬萊の巻』口絵	1897(明治30)	木版
鐙木清方(装丁)	『日の出島 朝日の巻』(村井弦斎著)表紙	1902(明治35)	
	『九十七時間二十分間 月世界旅行 巻之弐』 (米国ジュールスベルン氏著、井上勤訳、黒瀬勉二発行)	1880(明治13)	銅版／本
	『五大洲中 海底旅行 完』第3版 (ジュールスベルン氏著、服部誠一校閲、大平三次重訳、繪田政二郎発行)	1887(明治20)	木口木版／本
	『世界進歩 第二世紀』 (仏国ア・ロビゲー氏著、服部誠一訳述、岡島宝玉堂発行)	1886(明治19)	石版／本
亀井至一(挿画)	『経国美談 後編』(矢野文雄纂訳兼出版、報知新聞社発行)	1884(明治17)	石版／本
亀井至一(挿画)	『経国美談』第7版(矢野文雄纂訳兼出版、報知新聞社発行)	1888(明治21)	石版／本
亀井至一(挿画)	『経国美談 完』第13版(矢野文雄纂訳、長島文昌堂発行)	1894(明治27)	石版／本
亀井至一(挿画)	『訂正 経国美談』第5版 (矢野龍溪著、文盛堂書店発行)	1910(明治43)	石版、銅版／本
青木繁(口絵)	『春鳥集』(蒲原有明著、本郷書院)	1905(明治38)	木口木版／本
田中恭吉、恩地孝四郎	『月に吠える』(萩原朔太郎著、感情詩社、白日社出版部)	1917(大正6)	木版他／本
川西 英	『カルメン』(版画荘)	1934(昭和9)	木版／本
川西 英	『曲馬写生帖』(版画荘)	1934(昭和9)	木版／本
川西 英	『サーカス』(版画荘)	1934(昭和9)	木版／本
織田一磨	『書窓版画帖十連聚其一 都会生活』	1941(昭和16)	石版／本
川西 英	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』	1941(昭和16)	木版／本
川上澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』	1941(昭和16)	木版／本
前川千帆	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』	1942(昭和17)	木版／本
関野準一郎	『書窓版画帖十連聚其五 東京の空』	1942(昭和17)	エッチング／本
武井武雄	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』	1942(昭和17)	エッチング、ドライポイント／本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』	1942(昭和17)	木版／本
恩地孝四郎	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』	1943(昭和18)	木版／本
平塚運一	『書窓版画帖十連聚其九 伊豆一周画詞』	1941(昭和16)	木版／本
山下清澄	『幻想庭園』(アンドレ・P・マンディアルグ著)	1983(昭和58)	エッチング、アクアチント／ポートフォリオ
吉田穂高	私のコレクションより-坂道の家、P. M.	1982(昭和57)	木版、亜鉛凸版・紙
斎藤寿一	魚	1958(昭和33)	ディープエッチング、エングレービング・紙 斎藤聡子氏寄贈
斎藤寿一	街	1959(昭和34)	ディープエッチング、エングレービング・紙 斎藤聡子氏寄贈
斎藤寿一	海	1959(昭和34)	ディープエッチング、エングレービング・紙 斎藤聡子氏寄贈

展示室 4 - ② 美と用の調和

「工芸」という用語が日本で使われるようになったのは、明治時代からです。この時期、西洋からもたらされた「美術」という概念とともに「工芸」というジャンルが形成されました。

工芸は、実用性と美しさを兼ね備えています。実用的であればあるほど、生活の役には立ちますが、美的価値がなければ工芸にはなりません。

工芸の分野は、陶芸、ガラス工芸、金工など多岐にわ

たります。郡山市出身の佐藤潤四郎は、クリスタルガラスを基調としながらも、ぬくもりを感じさせる作品を生み出しました。

また、19世紀後半にイギリスで活躍したクリストファー・ドレッサーは、ガラス工芸はもとより、陶磁器、金属製品など多様なデザインを手がけ、モダン・デザインの道を切り開きました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス／宙吹 田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	花器(雲母入り)		ガラス／宙吹・雲母封入
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し		ガラス／宙吹・グラヴェール
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	花器(グリーン)		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	花器(グリーン)		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	雲母入り花器		ガラス／宙吹・雲母封入

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	水指(魚)	1986(昭和61)	ガラス/型吹	
佐藤潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈
田村耕一	野草図楕円鉢	1963(昭和58)頃	陶器	麻山富義氏寄贈
仁阿弥道八	刷毛目鉢	19世紀(江戸)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	
浜田庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田庄司	黒釉錆流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
三輪休雪(11代)	白萩茶碗	大正-昭和	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	金彩筒型三足花器		磁器	
クリストファー・ドレッサー	瓶(淡緑色クルーサ・ガラス)	ガラス		
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ 大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
植木 茂	体		木
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第3期 常設展示室3鑑賞風景

展示室1 小特集：イギリスの挿絵

美しい装丁、活字やレイアウトのデザイン性など、イギリスの豊かな本の世界から、今回は挿絵の魅力について、19世紀末の作例をご紹介します。

文字やレイアウトのデザインにもこだわったウィリアム・モリス主宰のケルムスコット・プレスの本は、挿絵ばかりでなくページ全体でひとつの世界が構築されてい

ます。日本人にも大きな影響を与えたオーブリー・ビアズリーの挿絵は、余白の使い方や直線と曲線の対比など、美しくユニークな魅力にあふれています。

郡山市立美術館のコレクションの特色となっているイギリス近代美術の流れとともに楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	性格と戯画	1743	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	誤った遠近法		エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ジン小路	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914頃	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ(画)	W.モリス『世界の果ての泉』	1896	木口木版・紙／本 ケルムスコット・プレス版
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ(画)	F.エリス編集『ジェフリー・チャーサー作品集』	1896	木口木版・紙／本 ケルムスコット・プレス版
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵)	1893	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	J.ラムスデン・プロバートの蔵書票 (『イエロー・ブック』第1巻挿絵)	1893	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『イエロー・ブック』ポスターデザイン	1894	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	ウィニフレッド・エメリーの肖像 (『イエロー・ブック』第4巻挿絵)	1895	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『イエロー・ブック』第5巻表紙デザイン	1895	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	メッサリーナ(ユヴェナリス著『6番目の風刺』挿絵)	1895	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『ピエロ・ライブラリー』表紙見返しデザイン	1896	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『ピエロ・ライブラリー』裏表紙見返しデザイン	1896	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『ピエロ・ライブラリー』タイトルページデザイン	1896	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	モスカ(アーサー・シモンズ『ディエップ：1895年』挿絵)	1896	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	アリ・ババ(『40人の盗賊』(未出版)表紙デザイン)	1896	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	『イエロー・ブック』ポスターデザイン(未使用)		ラインブロック・紙

展示室2 人物を描く

人物は古来、美術における重要なモチーフのひとつとして用いられてきました。画家自身の精神まで伝える自画像、特定の人物をモデルに描かれた肖像画のほかにも、何気ない表情やしぐさが詩情豊かに表された作品など、絵画においてもさまざまな人物像が見られます。人物を描くということは、古今東西を問わず多くの画家たちに追及され続ける永遠のテーマといえるでしょう。

日本では、明治に入り本格的に研究され始めた油彩画が、時代を追うにつれ多様性を展開していくなかで、人物画においても多くの成果が生み出されています。画家の眼を通して表現された人物たちは、その内面や描かれた背景をも感じさせ、私たちに多くのことを語りかけてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
浅井 忠	少女の顔	1878(明治11)	木炭・紙
五姓田義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
山本芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス	
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス	
白瀧幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス	
有島生馬	少女	1908(明治41)	油彩・キャンバス	
原 撫松	婦人像	1906-7(明治39-40)頃	油彩・キャンバス	
伊藤快彦	子供像		油彩・キャンバス	
木村荘八	祖母の顔	1916(大正5)	油彩・板	
吉田謙吉	婦人	1923(大正12)	油彩・キャンバス	
小出楯重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス	
北川民次	本を読む労働者	1927(昭和2)	油彩・キャンバス	
伊原宇三郎	靴職人	1925-9(大正14-昭和4)頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
林 重義	顔(自画像)		油彩・キャンバスボード	武田光司コレクション寄贈
里見勝蔵	軍人	1927(昭和2)	油彩・キャンバス	
清水登之	モンゴルの人	1935(昭和10)頃	油彩・キャンバス	
中山 巍	赤ジレ座婦	1927(昭和2)	油彩・キャンバス	
内田 巖	首飾りの女	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
古茂田守介	少女	1949(昭和24)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
吉岡 憲	人物	1949(昭和24)頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
佐藤昭一	マフラーの自画像	1945(昭和20)頃	油彩・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
水田荘介	青衣の女	1964(昭和39)	油彩・キャンバス	
高山良策	こども	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	西村祐次氏寄贈
横井弘三	子供		油彩・キャンバス	
勝呂 忠	母と子	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	勝呂忠氏寄贈

展示室3 グラフィック・アートの魅力

グラフィック・アートは、主に版画や印刷によって表現された芸術作品です。これらは、作品を複製する実用性を担っていますが、19世紀以降、芸術的側面からとらえる傾向が強まり、版画や印刷特有の色調や線、画面の平面性などに魅了された芸術家が多くあらわれました。現在のチェコに生まれ、パリで活躍したアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)もそのひとりです。

20世紀に入ると、限定出版による版画集が隆盛期を迎えます。イギリスの画家・版画家のパトリック・コールフィールド(1936-2005)の版画集『ジュール・ラフォルグの詩』は、フランス詩人ラフォルグの詩を説明的に描写するのではなく、詩から生まれるイメージを明確な輪郭線と平面的な色彩によって視覚化しています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩(A版)』	1973	シルクスクリーン・紙 ／ポートフォリオ(6点組)
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B	1976	リトグラフ・紙
デイヴィッド・ホックニー	『放蕩者のなりゆき』	1961-63	エッチング、アクアチント・紙(16点組)
サー・エデュアルド・パオロツィ	『ムーンストリップス・エンパイア・ニュース』Vol1	1967	シルクスクリーン・紙(一部アセテート) ／ポートフォリオ(100点組)
サー・エデュアルド・パオロツィ	『零エネルギー実験電池』Vol1	1970	リトグラフ、シルクスクリーン・アクリル ／ポートフォリオ(6点組)

展示室4-① ショーラムのエインシャンツ

1821年、『ヴァージルの「田園詩」第1巻』がイギリスで発行されました。そこには、詩人で画家のウィリアム・ブレイク(1757-1827)の珠玉の木口木版画17点が挿入されていました。荒々しく、ともすれば素人の手によるものも見られそうな彫りですが、そこに描かれたモノクロームの風景は、静かで、平和で、理想郷と呼ぶにふさわしいものです。それらの木口木版画に魅せられた若いパー

マーやカルヴァートといった画家たちは、イングランド南東部のケント州にあるショーラムというところに集い、自らをエインシャンツ(古代人たち)と呼び、時にはブレイクを囲んで創作活動をしていたのでした。その活動は一時期のものではありましたが、20世紀に入ってから、イギリスを代表する風景画家サザーランドらによってその魂が受け継がれました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ブレイク	『ヴァージルの「田園詩」第1巻』	1821刊	木口木版・紙／本
ウィリアム・ブレイク	『ヴァージルの「田園詩」第1巻』(後刷)17点	1937刊	木口木版・紙／ポートフォリオ
ウィリアム・ブレイク	『ヴァージルの「田園詩」第1巻』から「コリネットの旅：ロンドンへ62マイルの標石」の試刷12点		木口木版・紙
バイフィールド	ブレイクの模刻(シノットとコリネットは二本の樹の間に腰を下ろして語り合う)2点		木口木版・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
バイフィールド	ブレイクの模刻(シノットと悲しみに腕を振り回すコリネット)		木口木版・紙
バイフィールド	ブレイクの模刻(シノットはコリネットを諫める)		木口木版・紙
バイフィールド	ブレイクの模刻(シノットはコリネットを諫める：遠景「速足」)		木口木版・紙
ジョン・リネル	正午(真昼の羊)	1818	エッチング・紙
ジョン・リネル	修道院の廃墟	1818	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	クリスマス(最後の羊を囲う)	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	牧夫の小屋(日没)	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	眠る羊飼ひ：早朝	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	昇る月(イングランドの田園詩)	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	疲れ果てた農夫(牧夫またはタードゥス・ブブルクス)	1858	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫(山々に広がる朝)	1861以前に着手	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	生命の朝	1860-1に着手	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	夜回りの人	1879	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	孤高の塔	1879	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	囲いを開く(早朝)	1880	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	『ヴァージルの「田園詩」英語版』	1883刊	エッチング・紙／本
エドワード・カルヴァート	林檎酒の宴	1828	木口木版・紙
エドワード・カルヴァート	小川	1829	木口木版・紙
エドワード・カルヴァート	貴婦人とミヤマガラス	1829	木口木版・紙
エドワード・カルヴァート	家路	1830	木口木版・紙
フレデリック・ランシアー・グリッグス	聖イポリツ	1927	エッチング・紙
グレアム・サザーランド	薪	1925	エッチング・紙
グレアム・サザーランド	ミカエル祭	1928	エッチング・紙
ポール・ダリー・ドゥルーリー	夕暮れ	1925	エッチング・紙
ポール・ダリー・ドゥルーリー	九月	1928	エッチング・紙
ロビン・タナー	マーティンのあばら家	1927	エッチング・紙
ジョゼフ・ウェッブ	林檎の並木道	1938	エッチング・紙

展示室4-② 工芸のデザイン

工芸のデザインは、もの自体の特質—制作方法や素材、使用目的と深く関わっています。郡山出身の佐藤潤四郎(1907-1988)はガラスの特性を見極めて、職人の手仕事の痕跡を感じさせるようなぬくもりのあるガラスデザインを生み出し、イギリスの工業デザイナー、クリストファー・ドレッサー(1834-1904)は近代的な製造方法に

適した先進的なデザインを考案しました。どの作品にも使い手の生活を彩る意匠が凝らされています。また、彼らは広く異国のデザインに学び、その要素を取り入れて自身のデザインを昇華させてきました。日本とイギリスで、それぞれに工芸の一時代を築いた二人の作家のデザインをお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器(顔)	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人(2点組)		鍛鉄 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986(昭和61)	ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	フンペンガラス	1975(昭和50)頃	ガラス／宙吹 小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス／宙吹・プランツ
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー(スモークグラス)(2点組)		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス／型吹ほか 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル製作	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス／宙吹 川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス／型押し
佐藤潤四郎	花器(グリーン)		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し		ガラス／宙吹・グラヴェール
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス／宙吹
佐藤潤四郎画 福永昭二書	『比伊止呂造法』	1984(昭和59)	本(芸艸堂発行)
佐藤潤四郎著	『ガラス 窯と火と風』	1979(昭和54)	本(芸艸堂発行)
各務鑑三著 佐藤潤四郎画	『ガラスの生長』	1983(昭和58)	本(中央公論美術出版発行)
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット(穴あきふるい付き)	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック(円形、可動式)		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック&ブックエンド	1885	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	染付鳥文壺		磁器
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	把手付き燭台		真鍮、木製把手
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台(一対)		真鍮
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		銅、真鍮、鍛鉄
クリストファー・ドレッサー著	『植物学の基礎』	1859	本
クリストファー・ドレッサー著	『デザイン研究』	1874-76	本

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ 大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
植木 茂	体		木
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第4期 常設展示室4

2) 企画展

石田智子展 雑華—ありのままに

会 期:令和2年(3月1日(日))~4月19日(日)
 観 覧 料:一般500円(400)円
 高校・大学生・65歳以上300(240)円
 ※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

石田智子は、紙撚を幾層にも重ねさせて独自の世界を表出する美術作家である。彼女が作り出す幻想的な作品は、国内外で高い評価を得ている。

寺に嫁いだ石田は、そこでの膨大な仕事を日々こなすなかで、紙撚による作品制作を始める。参拝者が持参する想いのこもった供え物の包装紙がきっかけとなり、制作の時間・素材・場所など、すべてが日常生活の営みと共存するかたちで始まった作業だった。そして紙撚ひとつひとつを織るように組み合わせ、展示空間を含めた大きな作品を生み出したのである。

石田の作品は、会場の特徴を活かしながら展示方法や演出を変えるため、ひとつとして同じものはない。本展では、壮大にして静謐な世界を当館の企画展示室に展開させた。

なお、展覧会出品作「重重無尽シリーズⅡ」は、当館へ見学に来た小中学生との共同制作。

関連行事

(すべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止)

- 対談「撚る手と自分と紙撚達」
 講師：石田智子、佐治ゆかり(当館館長)
 日時：令和2年3月15日(日)午後2時から
 場所：多目的スタジオ
- 公開ワークショップ「紙のヨコガオ・紙のスキマ」
 講師：石田智子、新田量子(当館学芸員)
 日時：令和2年3月7日(土)、8日(日)各日午前10時から12時、
 午後1時から3時
 場所：企画展示室前
- アーティスト・トーク
 講師：石田智子(聞き手：当館学芸員)
 日時：令和2年4月11日(土)午後2時から
 場所：企画展示室

発行物

『展覧会カタログ「石田智子展 雑華—ありのままに」』

210×288mm 32ページ

発行日：令和2年3月

編集：郡山市立美術館(新田量子、杉原聡)

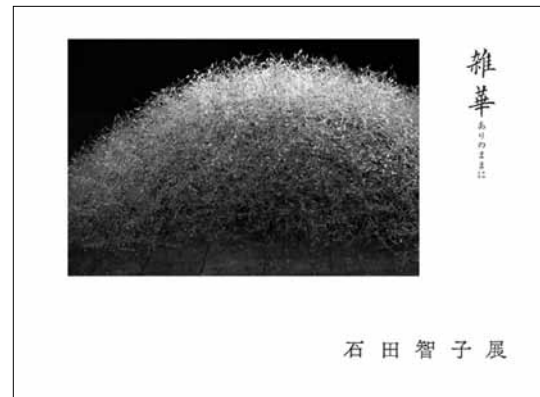
翻訳・制作：株式会社アム・プロモーション

発行：郡山市立美術館

内容：石田智子「雑華—ありのままに」／佐治ゆかり「拵紙家心～石田智子の世界」／石田智子「むすんでひらいて」／石田智子「揺籃」／石田智子「逍遙：聖なる散歩」／石田智子「重重無尽シリーズⅠ」／石田智子「重重無尽シリーズⅡ」／Document／新田量子「紙撚が結ぶもの」／過去の主な作品／石田智子略歴



ポスター



図録

関連記事

「15万本の「紙燃」アート 郡山市立美術館 石田さん作品展」、『福島民友』令和2年3月3日付。

新田量子「紙燃で作品「気持ち」重ね 供え物の包装紙から着想 石田智子展来月19日まで」、『福島民友』令和2年3月25日付。

「こよりで幻想的作品 郡山市立美術館 石田さん(三春)制作」、『福島民報』郡山版、令和2年3月9日付。

出品リスト

作品名	制作年	材質	サイズ(cm)
むすんでひらいて	2020(令和2)年	白紙、ステンレス	直径400×高さ90(2点)、直径370×高さ120、直径70×高さ230
揺籃	2020(令和2)年	白紙、ステンレス	幅700×奥行400×高さ120
逍遙：聖なる散歩	2020(令和2)年	新聞広告紙、トタン	縦356×横398(縦20×横20を323個)
重重無尽シリーズⅠ	1996-2020(平成8-令和2)年	新聞広告紙、包装紙	幅57×奥行53×高さ57(①)、幅180×奥行20×高さ20(②)、直径20×高さ15(③)、直径10×長さ1000(④)、直径50×高さ90、直径80、直径65
重重無尽シリーズⅡ	2020(令和2)年	新聞広告紙、ポイド管	直径20、直径15



重重無尽シリーズⅡ



むすんでひらいて

うるわしき美人画の世界 —木原文庫より—

会 期:令和2年6月27日(土)～8月23日(日)

主 催:郡山市立美術館

企画協力:青幻舎プロモーション

観 覧 料:一般800円(640)円

高校・大学生・65歳以上500(400)円

※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

木原真人氏所蔵の近代日本画のコレクション展。

木原氏は福島県に生まれ、今泉亀撤(1907～2009、郡山市名誉市民)の岩手医科大学における最後の教え子であったなど、本市にも縁の深い人物である。少年期から近世・近代の文学に親しみ、やがて本業の傍ら、文学者の直筆資料や絵画作品の蒐集に努めた氏の一大コレクションは、現在「木原文庫」として、特に美人画の分野で高い評価を得ている。

本展覧会では、東京の鎗木清方、大阪の島成園を中心として、上村松園、北野恒富、木谷千種らの艶やかな女性像を描き出した作品群を中心に紹介している。さらにそれらに加えて、円山応挙や渡辺崋山といった近世の絵師から、横山大観、竹内栖鳳、土田麦僊らに至るまでの風景画や歴史画など、日本画の大きな流れを辿った。

関連行事

○対談:「木原文庫の魅力」

講師:木原真人(医師、コレクター)、上園四郎(笠岡市立竹喬美術館顧問)

日時:令和2年8月1日(土)午後2時から

場所:多目的スタジオ

発行物

『増補版 艶美の競演 —東西の美しき女性 木原文庫より—』

220×170mm 152ページ

編集:笠岡市立竹喬美術館

発行:株式会社青幻舎プロモーション

制作:ニューカラー写真印刷株式会社

内容:ごあいさつ/木原真人「線描の極致にひかれて」/目次/上園四郎「艶美の競演—東西の美しき女性— 木原文庫について」/図版/増補/作家略歴/主要画題解説/作品目録

関連記事

「うるわしき美人画の世界—木原文庫より」『福島民友』令和2年6月26日付。

「『美人画の世界』始まる 郡山市立美術館 再開後初の企画展」『福島民報』令和2年6月29日付。

「『美人画の世界』開幕 市立美術館2ヵ月ぶり企画展 木原文庫の名作紹介」『福島民友』令和2年6月29日付。

「東西美人画 クールに競演 郡山市立美術館 鎗木清方、島成園ら」『福島民友』令和2年7月8日付。

「魅入られて うるわしき美人画の世界 木原文庫より 郡山市立美術館 企画展近代日本画の流れ概観」『福島民報』令和2年7月28日付。



ポスター



図録

出品リスト

No	作家名	作品名	制作年	材質	形状	寸法(cm)
1	歌川国貞	秋草と美人図	江戸時代	絹本着色	軸	42.3×69.5
2	上村松園	志々ぼん玉	明治36(1903)年頃	絹本着色	軸	140.0×56.0
3	上村松園	良夜吹笛図	大正3(1914)年頃	絹本着色	軸	113.0×43.0
4	吉川霊華	清宵	大正13(1924)年	絹本着色	軸	126.1×35.7
5	伊藤小坡	小野小町之図	制作年不詳	絹本着色	額	165.5×70.0
6	伊藤小坡	虫壳	制作年不詳	絹本着色	軸	49.8×57.5
7	西村五雲	鏡	制作年不詳	絹本着色	軸	26.3×23.6
8	簗木清方	夏の朝(秋のおとづれ)	大正4(1915)年	絹本着色	軸	34.0×17.7
9	簗木清方	辰橋の小百合(芝居十二カ月の内) (『新演芸』口絵原画)	大正6(1917)年	絹本着色	額	34.3×24.0
10	簗木清方	花いばら	大正末期	絹本着色	軸	126.0×41.0
11	簗木清方	合歡の花	昭和4(1929)年	絹本着色	軸	144.0×51.0
12	簗木清方	鏡獅子	昭和9(1934)年	絹本着色	軸	127.5×41.7
13	簗木清方	道成寺	昭和13(1938)年	絹本着色	軸	124.0×36.0
14	簗木清方	合歡	昭和10年代後半	絹本着色	軸	120.0×27.5
15	簗木清方	京鹿子娘道成寺	昭和15(1940)年頃	絹本着色	軸	53.3×71.3
16	簗木清方	明治風俗 すずみ舟	制作年不詳	絹本着色	軸	40.0×50.5
17	簗木清方	初夏の雨	制作年不詳	絹本着色	軸	48.0×58.0
18	簗木清方	吉野山(『苦楽』表紙絵原画)	昭和23(1948)年	絹本着色	額	28.5×27.3
19	簗木清方	重陽佳節	制作年不詳	絹本着色	軸	129.0×41.5
20	簗木清方	野崎村	制作年不詳	絹本着色	双幅	各118.3×33.4
21	簗木清方	夕潮	制作年不詳	絹本着色	軸	115.0×36.0
22	簗木清方	秋野	制作年不詳	絹本着色	軸	124.2×35.7
23	簗木清方	小田原天神山	制作年不詳	絹本着色	双幅	各129.5×31.5
24	簗木清方	おかる	制作年不詳	絹本着色	軸	115.5×27.8
25	菊池契月	寛文婦女	制作年不詳	絹本着色	軸	132.8×42.4
26	菊池契月	暄風	制作年不詳	絹本着色	額	143.2×50.6
27	菊池契月	暄風	制作年不詳	絹本着色	軸	121.0×27.8
28	北野恒富	道頓堀	制作年不詳	絹本着色	軸	41.8×50.3
29	北野恒富	舞妓	制作年不詳	絹本着色	軸	150.3×49.8
30	北野恒富	阿波踊之図	制作年不詳	絹本着色	軸	124.6×42.2
31	北野恒富	鷺娘	制作年不詳	絹本着色	軸	152.1×56.4
32	池田輝方	稲荷の茶屋	制作年不詳	絹本着色	軸	143.5×56.5
33	池田蕉園	きぬた	制作年不詳	絹本着色	軸	135.2×42.5
34	松浦舞雪	庭つたひ	昭和12(1937)年	絹本着色	軸	129.4×41.8
35	鳥 成園	影絵之図	大正8(1919)年頃	絹本着色	軸	130.7×50.3
36	鳥 成園	娘之図	制作年不詳	絹本着色	軸	130.7×51.1
37	鳥 成園	春乃夜	大正12(1923)年	絹本着色	軸	145.3×50.8
38	鳥 成園	桜花美人	制作年不詳	絹本着色	軸	139.8×51.0
39	鳥 成園	黄昏	制作年不詳	絹本着色	軸	118.8×42.1
40	鳥 成園	雨あがり	制作年不詳	絹本着色	軸	132.0×27.6
41	鳥 成園	浴後之図	制作年不詳	絹本着色	軸	123.0×35.4
42	鳥 成園	春之図	制作年不詳	絹本着色	軸	121.0×41.9
43	鳥 成園	春	制作年不詳	絹本着色	軸	131.0×43.0
44	鳥 成園	桜狩之図	制作年不詳	絹本着色	軸	125.5×41.2
45	鳥 成園	萩の庭	制作年不詳	絹本着色	軸	111.7×41.0
46	鳥 成園	螢	制作年不詳	絹本着色	軸	128.4×42.5
47	鳥 成園	女歌舞伎之図	制作年不詳	絹本着色	軸	127.5×42.1
48	鳥 成園	雨乃日	制作年不詳	絹本着色	双幅	各113.4×27.9

No	作家名	作品名	制作年	材質	形状	寸法(cm)
49	島 成園	白梅紅梅	制作年不詳	絹本着色	軸	125.4×35.8
50	谷角日沙春	柳桜	制作年不詳	絹本着色	軸	129.3×36.1
51	木谷千種	綻び	昭和3(1928)年	絹本着色	軸	70.8×82.9
52	木谷千種	雪兎	制作年不詳	絹本着色	軸	130.5×42.7
53	木谷千種	富貴草	制作年不詳	絹本着色	軸	126.7×40.8
54	梶原緋佐子	つれづれ	制作年不詳	絹本着色	軸	64.0×71.7
55	伊東深水	蛭籠	制作年不詳	絹本着色	軸	45.3×51.2
56	中村貞以	蛭	制作年不詳	絹本着色	軸	46.6×56.8
57	中村貞以	待つ宵	制作年不詳	絹本着色	軸	115.0×36.0
58	橋本雅邦	雲壑秋風図	明治24(1891)年	絹本着色	軸	140.0×56.4
59	川端玉章	衣食住図	制作年不詳	絹本着色	軸	136.5×68.8
60	竹内栖鳳	柳下稚雀	制作年不詳	絹本着色	軸	107.5×42.4
61	竹内栖鳳	神苑群鴉図	大正2(1913)年	絹本着色	軸	131.3×50.2
62	横山大観	水國之夜の影	制作年不詳	紙本墨画淡彩	軸	125.1×53.1
63	横山大観	竹林	制作年不詳	絹本墨画	軸	42.5×57.2
64	川合玉堂	竹裏春信	昭和13(1938)年	絹本着色	軸	128.6×28.0
65	菱田春草	柿に鳥	明治43(1910)年	絹本着色	軸	114.8×50.0
66	平福百穂	雙竹喜雀	制作年不詳	絹本着色	軸	137.5×41.7
67	富田 溪仙	嶋原能春宵	大正10(1921)年	絹本着色	軸	60.1×69.2
68	富田 溪仙	春夜桃李図	大正13(1924)年	絹本着色	軸	129.2×26.6
69	富田 溪仙	花の寺	制作年不詳	絹本着色	軸	126.8×28.3
70	富田 溪仙	孫登	制作年不詳	紙本金地着色	軸	69.5×67.8
71	富田 溪仙	放鶴図	制作年不詳	絹本着色	軸	144.0×50.3
72	橋本関雪	長恨歌	昭和4(1929)年	紙本墨画	卷子	47.0×710.1
73	橋本関雪	冬野	制作年不詳	絹本着色	軸	42.5×50.7
74	安田靉彦	蓬萊	制作年不詳	絹本着色	双幅	各124.5×35.2
75	前田青邨	驟雨	制作年不詳	絹本着色	軸	127.5×42.2
76	土田麦僊	老松山鳩図	大正15(1926)年	絹本着色	軸	147.8×42.3
77	榊原紫峰	赤松山鳩	大正8(1919)年	絹本着色	軸	170.0×72.1
78	榊原紫峰	雪中柳鷺図	制作年不詳	絹本着色	軸	134.3×42.0
79	榊原紫峰	老松鷹	制作年不詳	絹本着色	軸	135.5×42.3
80	小茂田青樹	山茶花	制作年不詳	絹本着色	軸	20.3×17.9
81	池田遙邨	祇園桜	制作年不詳	絹本着色	軸	143.6×51.5
特1	円山応挙	藤花狗子図	江戸時代	絹本着色	軸	87.3×32.2
特2	酒井抱一	草花図	江戸時代	絹本着色	軸	96.4×36.4
特3	渡辺崋山	山茶群雀図	江戸時代	絹本着色	軸	99.7×28.2
特4	鐔木清方	すみた土産 春の七草	制作年不詳	絹本着色	軸	116.0×37.0
特5	鐔木清方	色の港	大正5(1916)年	絹本着色	軸	142.0×51.0
特6	鐔木清方	墨江燈影流 天明風	昭和33(1958)年	絹本着色	軸	95.0×56.3
特7	土田麦僊	明粧	昭和5(1930)年頃	絹本着色	額	25.8×28.4
特8	入江波光	天人図	大正10(1921)年	紙本墨画淡彩	軸	26.7×24.0
特9	入江波光	磯の魚	昭和12(1937)年頃	紙本墨画淡彩	軸	34.7×45.1
特10	島 成園	春宵	制作年不詳	絹本着色	軸	85.3×26.6

郡山の美術「今昔秘話展」～雪村を中心に～

会 期：令和2年8月29日(土)～9月27日(日)
主 催：郡山市立美術館
観 覧 料：一般300円(240)円
 高校・大学生・65歳以上200(160)円
 ※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

晩年を三春の地で過ごしたとされる雪村周継。室町時代後期を代表するこの奇想の画僧は、幅広く独創的な作風で後世の画家たちからも絶大な敬意を集めてきた。郡山市西田町にある雪村庵が地元で大切に守り伝えられてきたことも、雪村が愛され続けてきた証左と言える。三春や郡山の作品、資料を展覧し、永きにわたるこの地と雪村の縁を辿る。

当館所蔵の「四季山水図屏風」は、調査で紙継ぎに特徴的な側面があることがわかった。このように収蔵した作品を調査し、技法や材質を明らかにすることは美術館の大切な役割であり、作品を美しいまま後世に引き継ぐというもう一つの使命にもつながっている。

本展覧会では雪村周継、昭和初期に活躍した日本画家渡辺晨畝や郡山ゆかりの作家の作品を展示するとともに、当館の名品を守るための作品修復や所蔵品の秘密を紹介した。



ポスター

関連行事

- 講演会：「雪村庵と福聚寺」
講師：玄侑宗久(福聚寺住職)
日時：令和2年9月22日(火・祝)午後3時から
場所：多目的スタジオ
- 特別講座：「油彩画の修復～所蔵作品を通して」
講師：富山恵介(修復研究所21)、田中有沙子(当館学芸員)
日時：令和2年9月19日(土)午後3時から
場所：多目的スタジオ
- 美術講座：「郡山ゆかりの作家たち」
講師：菅野洋人(当館学芸課長)
日時：令和2年9月12日(土)午後3時から
場所：多目的スタジオ



鑑賞ガイドブック

発行物

観賞ガイドブック『郡山市立美術館コレクション◎話』
210×148mm 16ページ
発行日：令和2年8月29日
編集・発行：郡山市立美術館
協力：一世保存修復研究所、株式会社絵画保存研究所、有限会社修復研究所21
デザイン：imagement
内容：はじめに／発見／作品の調査／作品の修復

関連記事

「郷土の美術見よう 郡山市立美術館29日から企画展 雪村周継らゆかりの作家 所蔵品の秘密も紹介」『福島民報』令和2年8月26日付。
「独創的 雪村の作品 市立美術館27日まで美術今昔秘話展」『福島民友』令和2年9月3日付。
「雪村の名品 秘話展 郡山市立美術館 紙細かくつなぎ 無駄省く？」『福島民友』令和2年9月9日付。
「雪村らの作品展示 27日まで市立美術館で企画展」『福島民報』令和2年9月25日付。

出品リスト

語り継ぐ 雪村周継の軌跡

作者名	作品名	技法・材質	所蔵先
雪村周継	自画像(複製)	墨、淡彩・紙／軸	雪村庵保存会
【資料】	「雪村庵」扁額	墨、着彩・木／扁額	雪村庵保存会・三春町歴史民俗資料館寄託
【資料】	「櫻梅山」扁額(裏面)	墨、着彩・木／扁額	雪村庵保存会・三春町歴史民俗資料館寄託
【資料】	雪村庵関係書簡(3点)	墨・紙／軸	福聚寺
雪村周継	達磨	墨、淡彩・紙／軸	福聚寺
雪村周継	山水	墨・紙／軸	福聚寺
雪村周継	奔馬図	墨・紙／軸	三春町歴史民俗資料館
雪村周継	蕪之図	墨・紙／軸	個人蔵
雪村周継	大根蟹	墨、淡彩・紙／軸	個人蔵
雪村周継	二僊一圀図	墨・紙／三幅対	個人蔵
雪村周継	四季山水図屏風	墨・紙／六曲一双屏風	郡山市立美術館

受け継ぐ 日本画家 渡邊晨畝

作者名	作品名	技法・材質	所蔵先
渡邊晨畝	孔雀将雛之圖	岩絵具・絹／軸	安積疏水土地改良区
渡邊晨畝	孔雀之図	岩絵具・絹／軸	個人蔵
渡邊晨畝	孔雀圖	岩絵具・絹／軸	安積疏水土地改良区
渡邊晨畝	孔雀雛	岩絵具、墨・紙／軸	安積疏水土地改良区
荒木寛畝	鳥	岩絵具・紙／軸	齋藤哲生氏
渡邊晨畝	溪流に双鶴	岩絵具・絹／軸	郡山市立美術館
渡邊晨畝	鷹	岩絵具・紙／軸	齋藤哲生氏
渡邊晨畝	巖頭鷹	岩絵具、墨・紙／軸	安積疏水土地改良区
渡邊晨畝	薔薇之図	墨・紙／軸	個人蔵
渡邊晨畝	羽衣	岩絵具・絹／軸	安司敏憲氏
渡邊晨畝	出山釈迦図	岩絵具、墨・紙／軸	安司敏憲氏

描き継ぐ 郷里の作家の風景

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
斎藤清	青沼、裏磐梯、会津	1955(昭和30)	木版・紙	郡山市立美術館
福田利秋	磐梯山	1980(昭和55)	木版・紙	郡山市立美術館・福田利秋氏寄贈
湯田玉水	夏山驟雨・晩秋暮鴉		墨、岩絵具・絹／二曲一双屏風	郡山市立美術館
佐藤昭一	コンポジション	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
黒澤吉蔵	冬	1964(昭和39)	岩絵具・紙	郡山市立美術館・黒澤吉蔵氏寄贈
安藤重春	みちのく(蓮田の道)		岩絵具・紙	郡山市立美術館
山本森之助	冬の磐梯山	1918(大正7)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
土橋醇	無題【絶筆】	1978(昭和53)	油彩、鉄板・板	個人蔵
佐藤静司	風紋	1976(昭和51)	木	郡山市立美術館

伝え継ぐ コレクションの秘密

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
五姓田芳柳	風俗図屏風		水彩・紙／六曲一隻屏風	郡山市立美術館
林重義	顔(自画像)		油彩・キャンバスボード	郡山市立美術館・武田光司コレクション寄贈
岸田劉生	銀座数寄屋橋	1909(明治42)頃	油彩・板	郡山市立美術館
岸田劉生	銀座と数寄屋橋畔	1911(明治44)頃	油彩・板	郡山市立美術館
小林萬吾	朽葉の袖	1907(明治40)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
白瀧幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
有島生馬	少女	1908(明治41)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
中澤弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正3)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
原撫松	婦人像	1906(明治39)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
原撫松	奈良の夕	1911(明治44)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
恩地孝四郎	黒い机	1922(大正11)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
三木宗策	丹花綻ぶ	1936(昭和11)	木	郡山市立美術館・高橋周子氏寄贈
今西中通	子供を抱く女	1943(昭和18)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
吉井忠	敗れたる風景	1946(昭和21)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館・吉井忠氏寄贈
丸樹長三郎	戦災跡	1945(昭和20)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館・丸樹敏男氏寄贈
鎌田正蔵	祝日(B)	1966(昭和41)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
武内鶴之助	英国南部ミル牧場／風景		油彩・キャンバス	郡山市立美術館
天下藤次郎	赤城駒ヶ岳の紅葉／風景	1907(明治40)	水彩・紙	郡山市立美術館

生れ継ぐ 郡山の美術、今

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
黒沼令	哲学者	2020(令和2)	樺、桂、水木	作家蔵
黒沼令	刹那	2019(令和元)	樺、楠	作家蔵
黒沼令	漂う人	2018(平成30)	樺	作家蔵
佐藤鎮雄	く・し・しする／ゆいかん	2017(平成29)	木炭、アクリル・紙	作家蔵



美術講座(令和2年9月12日)

日本ガラス工芸の先達たちー藤七、鑛三、そして潤四郎

会 期：令和2年10月10日(土)～11月23日(月・祝)
 主 催：郡山市立美術館
 後 援：日本ガラス工芸学会
 観 覧 料：一般800円(640)円
 高校・大学生・65歳以上500(400)円
 ※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

日本人の生活が洋風化し、ガラス製品の需要が増え、ガラス製造技術も大いに発展した明治時代。

同じ工芸分野の陶磁器などがいち早く美術として認められたのに対し、産業製品としての位置づけから脱することができないまま、芸術分野として扱われなかったガラス工芸は、岩田藤七と各務鑛三によってようやく芸術として認められるようになる。

さらに郡山市出身の佐藤潤四郎は、2人の先達が切り開いた道をさらに展開していった。鑑賞の対象としても優れたデザイン性を持つ彼の作品は、クリスタルを基調としながらも「温かいガラス」「柔らかいガラス」と評価されたのである。

本展覧会では、日本ガラス工芸史における佐藤潤四郎の位置を再検証するとともに、それぞれの作家が近代ガラス工芸史に残した成果や功績を紹介した。



ポスター

関連行事

- 文化講座：「日本最古級ガラス工芸「玉枕」のミニチュアをつくろう」
 講師：牟田口章人(帝塚山大学客員教授)
 西田紀子(飛鳥資料館学芸主任研究官)
 日時：令和2年11月15日(土) 午前10時30分から
 場所：多目的スタジオ
- 日本ガラス工芸学会
 第48回見学会(オンライン)
 日時：令和2年12月26日(土)

発行物

『日本ガラス工芸の先達たちー藤七、鑛三、そして潤四郎』
 210×150mm 104ページ
 発行日：令和2年10月10日
 編集・発行：郡山市立美術館
 (鈴木誠一、富岡進一、川上恵理、塚本敬介)
 表紙デザイン：関根清(デザイナーズメッツ)
 制作・印刷：株式会社坂本印刷所
 内容：ごあいさつ／謝辞／目次／作品図版・出品目録／年譜／解説
 「日本ガラス工芸の先達たち」鈴木誠一／「日本ガラス工芸の先達たち」をもっと知りたい皆さまへ



図録

関連記事

「ふくしまのアート巡り ー中通りー 日本ガラス工芸の先達たち 藤七、鑛三、そして潤四郎」『福島民報』令和2年9月21日付。
 「先達たちの作品見て 市立美術館でガラス工芸展」『福島民報』令和2年10月17日付。
 「ガラス工芸先駆者紹介 佐藤潤四郎らの作品展 郡山市立美術館」『福島民友』令和2年10月22日付。
 「ガラスの美 伝えた3工芸家 郡山市立美術館で企画展 彩り鮮やか 藤七*きらめきの鑛三*温かみある潤四郎」『福島民友』令和2年11月3日付。

出品リスト

第1章 岩田藤七

	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
1	色替舟虫手花器	1935(昭和10)年	宙吹き、アブリケ	北海道立近代美術館
2	大鉢	1935(昭和10)年	宙吹き	北海道立近代美術館
3	トンボ玉風一輪挿	1936(昭和11)年	宙吹き	北海道立近代美術館
4	鉢	1937(昭和12)年	宙吹き	北海道立近代美術館
5	硝子鉢	1939(昭和14)年頃	宙吹き	北海道立近代美術館
6	花器《宵》	1945(昭和20)年	宙吹き、金属箔封入	北海道立近代美術館
7	花器《光りの美》	1950(昭和25)年	宙吹き	北海道立近代美術館
8	花器	1960(昭和35)年	宙吹き	岐阜県美術館
9	花器《鶏冠》	1962(昭和37)年	宙吹き	一般財団法人草月会
10	花器	1964(昭和39)年	宙吹き	京都国立近代美術館
11	花器・ナイル河畔	1970(昭和45)年	宙吹き	北海道立近代美術館
12	花器	1970(昭和45)年	宙吹き	岐阜県美術館
13	花器《歩む》	1975(昭和50)年	宙吹き	一般財団法人草月会
14	花器《南風》	制作年不詳	宙吹き	北海道立近代美術館
15	瓶	1974(昭和49)年	宙吹き、アブリケ	新宿区立新宿歴史博物館
16	ガラス鉢	1972(昭和47)年	宙吹き	一般財団法人草月会
17	ガラス鉢《湧き水》	1975(昭和50)年	宙吹き	一般財団法人草月会
18	盛器	1975(昭和50)年	宙吹き	京都国立近代美術館
19	茶碗《玄影》	制作年不詳	宙吹き	北海道立近代美術館
20	茶碗《三彩》	制作年不詳	宙吹き	北海道立近代美術館
21	茶碗《福寿》	制作年不詳	宙吹き	北海道立近代美術館
22	水指	1973(昭和48)年	宙吹き	岐阜県美術館
23	水指《雲間》	1975(昭和50)年	宙吹き	北海道立近代美術館
24	水指	1975(昭和50)年	型吹き	新宿区立新宿歴史博物館
25	水指	1975(昭和50)年	宙吹き	京都国立近代美術館
26	貝《浜辺の歌》	1963(昭和38)年	宙吹き	北海道立近代美術館
27	貝	1970年代	宙吹き	一般財団法人草月会
28	貝	1976(昭和51)年	宙吹き	新宿区立新宿歴史博物館
29	貝	1976(昭和51)年	宙吹き	岐阜県美術館
30	貝《月かげ》	1976(昭和51)年	宙吹き	北海道立近代美術館
31	貝《彩雨》	1976(昭和51)年	宙吹き	北海道立近代美術館
資料1	ガラスの貝のためのスケッチ	制作年不詳	淡彩、鉛筆・紙	個人蔵
資料2	ガラスの貝のためのスケッチ	1966(昭和41)年	鉛筆・紙	個人蔵
資料3	ガラスの貝のためのスケッチ	1966(昭和41)年	淡彩、鉛筆・紙	個人蔵
資料4	ガラスの貝のためのスケッチ	1973(昭和48)年	鉛筆・紙	個人蔵
資料5	ガラスの貝のためのスケッチ	1973(昭和48)年	淡彩、鉛筆・紙	個人蔵
資料6	ガラスの貝のためのスケッチ	1973(昭和48)年	淡彩、鉛筆・紙	個人蔵

第2章 各務鑛三

32	飾皿《折り》	1929(昭和4)年	宙吹き、グラヴェール	岐阜県美術館
33	皿《追憶》	1929(昭和4)年	宙吹き、グラヴェール	北海道立近代美術館
34	花器	1929(昭和4)年	宙吹き、被せガラス、カット	北海道立近代美術館
35	花器	1938(昭和13)年	宙吹き、カット	北海道立近代美術館
36	飾鉢《吉祥文》	1932(昭和7)年	宙吹き、被せガラス、カット、グラヴェール	北海道立近代美術館
37	鉢	1934(昭和9)年	宙吹き、カット、グラヴェール	北海道立近代美術館
38	鉢《馬の目》	1935(昭和10)年	型吹き、カット、グラヴェール	北海道立近代美術館
39	硝子鉢	1940(昭和15)年	型吹き、カット、エッチング	京都国立近代美術館
40	鉢	1943(昭和18)年	宙吹き	北海道立近代美術館
41	花器	1947(昭和22)年頃	宙吹き、カット、サンドブラスト	岐阜県美術館
42	花器《鹿》	1948(昭和23)年頃	宙吹き、グラヴェール	北海道立近代美術館
43	花器	1954(昭和29)年	宙吹き	カガミクリスタル株式会社
44	花瓶《壺中天》	1967(昭和42)年	宙吹き、カット	カガミクリスタル株式会社

	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
45	飾花器	1969(昭和44)年頃	宙吹き、気泡封入	北海道立近代美術館
46	花器	1978(昭和53)年	宙吹き、カット	北海道立近代美術館
47	飾壺《顔》	1979(昭和54)年	宙吹き、気泡封入、カット	カガミクリスタル株式会社
48	花器《瓢箪譜》	1982(昭和57)年	宙吹き、カット	カガミクリスタル株式会社
49	花瓶《神話》	1973(昭和48)年	宙吹き、カット、グラヴェール	カガミクリスタル株式会社
50	皿《座る》	1975(昭和50)年	宙吹き、グラヴェール	北海道立近代美術館
51	水指	1976(昭和51)年	宙吹き、気泡封入	岐阜県美術館
52	飾鉢《鳥獣》	1930(昭和5)年	型吹き、被せガラス、カット	北海道立近代美術館
53	飾皿《雨声》	1967(昭和42)年	宙吹き、グラヴェール	日本板硝子株式会社東京本社
54	花器《ひょうたん》	1940(昭和15)年	宙吹き、グラヴェール	北海道立近代美術館
55	花器《竹に雀》	1941(昭和16)年	宙吹き、グラヴェール、気泡封入	北海道立近代美術館
56	花器《海の幸・山の幸》	1967(昭和42)年	宙吹き、カット、グラヴェール	カガミクリスタル株式会社
57	クリスタル花瓶《鱗影》	1970(昭和45)年頃	宙吹き、気泡封入、グラヴェール	郡山市立美術館
58	花瓶《春陽》	1972(昭和47)年	宙吹き、グラヴェール	岐阜県美術館
59	花瓶《みほとけ》	1974(昭和49)年頃	宙吹き、グラヴェール	岐阜県美術館
60	花器《戴良碑文》	制作年不詳	宙吹き、グラヴェール	個人蔵
資料1	画帖『寒拾観梅』	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
資料2	色紙《河童》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
資料3	色紙《小杉放庵『寒拾清風の図』模写》	1966(昭和41)年	紙本墨彩	個人蔵
資料4	色紙《蛙》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
資料5	色紙《徳如海寿如山》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
資料6	色紙《杜甫『飲中八仙歌』より『李白一斗詩百篇』》	制作年不詳	紙本墨画	個人蔵
資料7	色紙《李白『月下独酌』》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
資料8	色紙《芭蕉狂句『こがらしの』の詞書より》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵

第3章 佐藤潤四郎

61	花器《黒い花》	1936(昭和11)年頃	宙吹き、カット	個人蔵
62	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)年頃	宙吹き	郡山市立美術館
63	波文花器	戦前か	宙吹き、カット	個人蔵
64	花器	制作年不詳	宙吹き、カット	個人蔵
65	泡入り花器	制作年不詳	宙吹き、気泡封入	個人蔵
66	花器	制作年不詳	宙吹き	個人蔵
67	玻璃花器	1979(昭和54)年	宙吹き	福島県立美術館
68	クリスタル鉢	制作年不詳	型吹き、カット	個人蔵
69	鳥文鉢(グリーン)	制作年不詳	型吹き、グラヴェール	個人蔵
70	クリスタル花器	1947(昭和22)年	宙吹き、カット、グラヴェール	京都国立近代美術館
71	クリスタルガラス花器《星座》	1964(昭和39)年頃	宙吹き、カット	個人蔵
72	クリスタル抹茶茶碗	1950年代中期(昭和20年代末期)年	型吹き	全龍寺
73	水指(スモーク)	1950年代中期(昭和20年代末期)年	宙吹き	全龍寺
74	花瓶	1967(昭和42)年	型吹き、カット	カガミクリスタル株式会社
75	トロフィー	1970(昭和45)年	宙吹き、グラヴェール	カガミクリスタル株式会社
76	花器(カットグラス)	1986(昭和61)年	型吹き、エッチング、カット	郡山市立美術館
77	花器(カレット入り)	制作年不詳	宙吹き、カレット封入	郡山市立美術館
78	龍文花器	制作年不詳	宙吹き、グラヴェール	郡山市立美術館
79	クリスタル花器	制作年不詳	宙吹き、ブランツ	郡山市立美術館
80	クリスタル六角鉢	制作年不詳	宙吹き	郡山市立美術館
81	クリスタル花器	制作年不詳	宙吹き	郡山市立美術館
82	クリスタル一輪挿し	制作年不詳	宙吹き、ブランツ	個人蔵
83	鍛鉄吹込花器《灯もつけて》	1986(昭和61)年	鍛鉄吹込	郡山市立美術館
84	鍛鉄吹込花器(グリーン)	1986(昭和61)年	鍛鉄吹込	郡山市立美術館
85	鍛鉄吹込花器《顔》	1986(昭和61)年	鍛鉄吹込	郡山市立美術館
86	鍛鉄吹込花器	制作年不詳	鍛鉄吹込、雲母封入	郡山市立美術館
87	ディキャンター	制作年不詳	宙吹き	カガミクリスタル株式会社
88	ウイスキーセット	制作年不詳	宙吹きなど	全龍寺

作品名	制作年	技法・材質	所蔵先	備考
89 ウイスキーボトル《ゴールドニッカ》	1957(昭和32)年頃	宙吹き、カット	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
90 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》初号モデル	1962(昭和37)年頃	宙吹き	郡山市立美術館	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
91 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》初号モデル	1962(昭和37)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
92 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル・緑	1964(昭和39)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
93 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル・黄	1964(昭和39)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
94 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル・黒	1964(昭和39)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
95 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル・赤	1964(昭和39)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
96 手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル・青	1964(昭和39)年頃	宙吹き	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作
97 ブランデーボトル《ファイヴスター》	制作年不詳	宙吹き、カット	ニッカウキスキー株式会社	佐藤潤四郎デザインか?／カガミクリスタル(株)製作
98 ウイスキーボトル『インベリアル』	1964(昭和39)年 ボトル納品開始	機械生産	郡山市立美術館	佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル(株)製作

作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
99 リュトン《ガラスの神様》	制作年不詳	宙吹き、グラヴェール	郡山市立美術館
100 タンブラー	制作年不詳	型吹き、プランツ	郡山市立美術館
101 タンブラー	制作年不詳	型吹き ほか	郡山市立美術館
102 タンブラー	制作年不詳	型吹き、グラヴェール、プランツ	郡山市立美術館
103 フンベングラス	1975(昭和50)年頃	宙吹き	郡山市立美術館
104 葡萄酒ワイングラス	制作年不詳	宙吹き、グラヴェール	郡山市立美術館
105 タンブラー(スモークグラス) ※2点組	制作年不詳	型吹き	郡山市立美術館
106 グリーンタンブラー	制作年不詳	宙吹き、プランツ	郡山市立美術館
107 クリスタルタンブラー 3点組	制作年不詳	型吹き、プランツ	個人蔵
108 ルーマー杯《大好きな形》	制作年不詳	宙吹き、プランツ	郡山市立美術館
109 ルーマー杯《なみなみのワインを》	制作年不詳	宙吹き、プランツ、グラヴェール	郡山市立美術館
110 ルーマー杯(グリーン)	制作年不詳	宙吹き、プランツ	郡山市立美術館
111 水指(プランツ)	1986(昭和61)年	型吹き、プランツ	郡山市立美術館
112 葡萄酒ボトル	制作年不詳	宙吹き、グラヴェール、プランツ	学校法人郡山開成学園
113 タンブラー	制作年不詳	型吹き、グラヴェール、プランツ	郡山市立美術館
資料8 色紙《芭蕉狂句「こがらしの」の詞書より》	制作年不詳	紙本墨彩	個人蔵
114 金紅被硝子大皿	1979(昭和54)年	型吹き、被せガラス、カット	福島県立美術館
115 飾り皿	1962(昭和37)年	型吹き、被せガラス、カット	カガミクリスタル株式会社
116 視屏《動いた様で動けない概念》	1966(昭和41)年頃	サンドキャスト	個人蔵
117 星座天文鎮《さそり座》	制作年不詳	サンドキャスト	全龍寺
118 星座天文鎮《白鳥座》	制作年不詳	サンドキャスト	全龍寺
119 星座天文鎮《おひつじ座》	制作年不詳	サンドキャスト	全龍寺
120 ベーバーウエイト《鍵》	制作年不詳	サンドキャスト	郡山市立美術館
121 花器《アダムとイヴ》	制作年不詳	宙吹き、サンドブラスト	郡山市立美術館
122 オブジェ《象形文字(羊)》	1984(昭和59)年	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	郡山市立美術館
123 オブジェ《手》	1984(昭和59)年頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	郡山市立美術館
124 オブジェ《仏足跡》	1984(昭和59)年頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	郡山市立美術館
125 花器《一寸考えて》	制作年不詳	宙吹き	郡山市立美術館
126 花器《何をしようか》	1986(昭和61)年	宙吹き	郡山市立美術館
127 馬	制作年不詳	宙吹き、プランツ	福島県立美術館
128 車	1971(昭和46)年	宙吹き	福島県立美術館
129 オブジェ《羊車》	1980-82(昭和55-57)年頃	宙吹き、プランツ	郡山市立美術館
130 魚(オレンジ)	1973-76(昭和48-51)年頃	宙吹き、カレット封入	郡山市立美術館
131 魚(ブルー)	1973-76(昭和48-51)年頃	宙吹き、カレット封入	郡山市立美術館

	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
132	オブジェ《これ以上芽の出ない世界》	1980-82(昭和55-57)年頃	宙吹き	郡山市立美術館
133	ブルー花器	制作年不詳	宙吹き	郡山市立美術館
134	花器《穴があいてちょっと考えた》	1980-82(昭和55-57)年頃	宙吹き、エッチング、カット	郡山市立美術館
135	花器《馬車に乗るガラスの神様》	1973-76(昭和48-51)年頃	宙吹き、サンドブラスト	郡山市立美術館
136	瓶《ガラスの神様》	制作年不詳	宙吹き、プランツ、グラヴェール	郡山市立美術館
137	大杯《ガラスを吹く人》	1986(昭和61)年	宙吹き、プランツ、グラヴェール	郡山市立美術館
138	文鎮《ガラスの神様》	制作年不詳	サンドキャスト	全龍寺
139	舍利器(西塔型バリエーション)	制作年不詳	宙吹き、エッチング、グラヴェール	郡山市立美術館
140	薬師寺西塔舍利器(試作)	1978(昭和53)年	型吹き、グラヴェール	北海道立近代美術館
141	奈良・薬師寺西塔舍利器(試作)	1978(昭和53)年	宙吹き、エッチング、グラヴェール	郡山市立美術館
142	舍利器(玄奘三蔵院型バリエーション)	制作年不詳	宙吹き、カット	郡山市立美術館
143	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(試作)	制作年不詳	宙吹き、カット	個人蔵
144	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(控)No.1	1980(昭和55)年	宙吹き、カット	郡山市立美術館
145	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー(控)No.1	1984(昭和59)年	宙吹き、プランツ、雲母封入	郡山市立美術館
146	仏足跡	1984(昭和59)年頃	放射能遮断ガラス/エッチング、サンドブラスト	法相宗大本山薬師寺
147	仏足跡	1984(昭和59)年	エッチング、サンドブラスト	全龍寺
資料1	サンドキャスト雄型	1966(昭和41)年頃	耐火粘土	郡山市立美術館
資料2	風呂敷《ガラスの神様》	制作年不詳	風呂敷	全龍寺
資料3	トリオ・ザ・ガラスの神様	制作年不詳	淡彩、墨・紙	郡山市立美術館
資料4	ガラスで作ろう	制作年不詳	淡彩・紙	郡山市立美術館
資料5	窯場の朝(ルツボの中)	制作年不詳	淡彩・布	郡山市立美術館
資料6	仏の掌に乗るガラスの神様	制作年不詳	淡彩、墨・紙	郡山市立美術館
資料7	夜空にガラスを吹くガラスの神様	制作年不詳	淡彩、墨・布	郡山市立美術館
資料8	窯をとりまくガラスの神々	制作年不詳	淡彩、墨・布	郡山市立美術館
資料9	窯場の神々①	制作年不詳	淡彩、墨・紙	郡山市立美術館
資料10	(仏足跡)	制作年不詳	墨・紙	郡山市立美術館
資料11	蓮の花と押し葉と仏足跡	制作年不詳	淡彩、墨、葉・紙	郡山市立美術館
資料12	仏足跡と窯	制作年不詳	淡彩・紙	郡山市立美術館
資料13	仏足跡・ガラス工具曼荼羅	制作年不詳	淡彩・紙	郡山市立美術館
資料14	仏足跡と4枚の葉	制作年不詳	墨・紙	郡山市立美術館
資料15	ヨットを浮かべた仏足跡	制作年不詳	淡彩・紙	郡山市立美術館
資料16	火影に顔が浮かんだ仏足跡	制作年不詳	淡彩、墨・紙	郡山市立美術館
資料17	参考資料：《ゴールドニッカ》販売案内状			ニッカウキスキー株式会社
資料18	参考資料：《スーパーニッカ》説明書			ニッカウキスキー株式会社



展示風景

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術

- 会 期:令和2年12月12日(土)~令和3年3月7日(日)
- 主 催:みんなのミュシャ展実行委員会
郡山市立美術館、福島中央テレビ
福島民友新聞社、ミュシャ財団
- 後 援:チェコ共和国大使館、チェコセンター
チェコ政府観光局
- 協 賛:大成建設、光村印刷、損保ジャパン
- 郡山展協賛:エフコム、ギャラリー葉根
郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
大和ハウス工業 福島支社、東北電力
福島県商工信用組合
- 協 力:日本航空、日本通運
- 企画協力:NTVヨーロッパ
- 観 覧 料:一般1500円(1200)円
高校・大学生・65歳以上900(720)円
※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

19世紀末のパリを舞台にグラフィック・アーティストとしての才能を開花させたアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、アール・ヌーヴォー運動の旗手としてポスターをはじめとする装飾芸術を次々と手掛けた。

豪華な衣裳や匂い立つような花々を身に纏った甘美な女性像は「ミュシャ様式」と呼ばれて一世を風靡し、今なお世界中の人々を魅了し続けている。とりわけ繊細かつダイナミック、流麗にして優美なミュシャの描線は、「線の魔術」と呼ぶにふさわしいミュシャ様式の真骨頂であり、後世のアーティストたちにも多大なる影響を及ぼした。

本展覧会ではミュシャ芸術を紹介するとともに、1960-70年代のカウンター・カルチャーへの影響や、ミュシャと近代日本の文芸界との関わり、さらに現代のマンガへの水脈に着目した。

関連行事

- 美術講座:「ミュシャと日本—『明星』からマンガまで」
講師:永山多貴子(当館学芸員)
日時:令和3年2月20日(土)午前10時から
場所:多目的スタジオ
- 美術講座:「ミュシャのポスター—魅惑のまなざしと花々」
講師:永山多貴子(当館学芸員)
日時:令和3年2月27日(土)午前10時から
場所:多目的スタジオ
- コンサート:山中千尋 ピアノトリオコンサート~みんなのミュシャとジャズ~
出演:山中千尋(ピアノ)、山本裕之(ベース)、桃井裕範(ドラムス)
日時:令和2年11月28日(土)開演:午後5時
会場:けんしん郡山文化センター(中ホール)
- オンライン・アートライブ:天野喜孝オンラインアートライブ
講師:天野喜孝
日時:令和3年2月6日(土)開演:午後4時30分から



ポスター



図録

発行物

『みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ線の魔術』

256×186mm 246ページ

発行日：令和元年

編集：日本テレビ放送網、Bunkamura ザ・ミュージアム

発行：日本テレビ放送網

デザイン・製作：美術出版社

印刷：光村印刷

監修：佐藤智子(ミュシャ財団キュレーター)

アドバイザー：大塚英志(国際日本文化研究センター 教授)

執筆：佐藤智子、大塚英志、ジョー・ケサダ(マーベル・エンターテインメント チーフ・クリエイティブ・オフィサー)、中村暁子(名古屋市美術館学芸員)、畑智子(京都文化博物館 学芸課長)、三谷理華(静岡県立美術館 学芸課長)

和文英訳：クリストファー・スティヴンス

英文和訳：岡本亜希子(メディアエッグ)

内容：ごあいさつ／メッセージ／謝辞／目次／佐藤智子「ミュシャからマンガへ：ミュシャ 様式とふたつのアール・ヌーヴォー」／第1章 序—ミュシャ様式へのインスピレーション、畑智子「ミュシャの装飾文様と日本の七宝について」／第2章 ミュシャの手法とコミュニケーションの美学／第3章 ミュシャ様式の「言語」、中村暁子「1900年代初頭のミュシャとクリムト」／第4章 よみがえるアール・ヌーヴォーとカウンターカルチャー、ジョー・ケサダ「ミュシャからマンガへ線の魔術」、「ミュシャと私(英米編)」／第5章 マンガの新たな流れと美の探求、三谷理華「日本ミュシャ事始め—白馬会周辺から」、大塚英志「明治期のミュシャ様式文芸誌群と言文一致」、「ミュシャと私(日本編)」／作品解説／関連年表／Sections／Welcome to *Mucha to Manga: The Magic of Line.* / Joe Quesada／作品リスト(List of Works)／ミュシャ国内文献一覧／Select Bibliography /Mucha Exhibitions Organised by the Mucha Foundation

関連記事

「時代を超える「線の魔術」ミュシャ展郡山で12月開幕」『福島民友』令和2年8月6日付。

「楽都にジャズの音色を 来月28日山中千尋さん(郡山市生まれ)公演」『福島民友』令和2年10月27日付。

永山多貴子「1線の魔術」『福島民友』令和2年12月2日付。

永山多貴子「英米で大胆アレンジ」『福島民友』令和2年12月2日付。

永山多貴子「2漫画に通じる世界観」『福島民友』令和2年12月9日付。

永山多貴子「神話性 天野作品に影響」『福島民友』令和2年12月9日付。

永山多貴子「3円環による視覚効果」『福島民友』令和2年12月16日付。

新田暁子「サイケの世界観と共鳴」『福島民友』令和2年12月16日付。

永山多貴子「4サラ・ベルナール」『福島民友』令和2年12月23日付。

川上恵理「クリスマスに届いた依頼」『福島民友』令和2年12月23日付。

永山多貴子「5若者文化への波及」『福島民友』令和3年1月6日付。

塚本敬介「ロックをつないだ「花」」『福島民友』令和3年1月6日付。

出品リスト

M=Mucha Foundation (ミュシャ財団) P=Private Collection (個人蔵)

1. 序—ミュシャ様式へのインスピレーション

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
1	アルフォンス・ミュシャ	磔刑図	1868年	鉛筆、クレヨン、水彩・紙	37.0x23.5	M
2	アルフォンス・ミュシャ	ブルノ、ベトロフ教会聖歌隊の少年たち	1905年	水彩・厚紙	24.0x23.7	M
3		カトリック儀式用振り香炉	19世紀	鎖付き真鍮製香炉	(Body)Height21 Diameter:10	M
4		教会の説教壇用バナー—ローマの高潔な殉教者、聖パラスケヴァ	19世紀	リネンで裏打ちされた絹布にアップリケ刺繍(油彩・カンヴァス生地、紙で裏打ちされた絹、スパンコール、絹糸、木綿糸)	102.5x75.0	M
5		モラヴィアの伝統工芸：ガラス画「イエス・キリストと洗礼者ヨハネ」	19世紀	手描きエナメル画・ガラス	A:27.0x16.5 B:27.0x17.0	M
6		モラヴィアの民芸品：花柄の花瓶	20世紀初め	手描き陶器	7.0x13.5	M
7	アルフォンス・ミュシャ	花模様を施したチェコ民芸品のある静物画	1920年代	油彩・カンヴァス	35.7x25.5	M
8	ハンス・マカルト	『マカルト・アルバム』(ウィーン、フランツ・ボンディ出版)	1880-1882年頃	エッチング集	41.0x29.5	M
9	フランティシェク・クブカ	ミュシャに宛てたパリのベセダ(チェコ文化フォーラム)の任命書	1898年	鉛筆、インク、水彩、クレヨン・紙	54.0x35.0	M
10		『1896年10月5日-9日 シェルブール、パリ、シャロン：パリ市庁舎に集う群衆』(パリ、ル・タン出版/サンクトペテルブルク、ル・ヌーヴォー・タン出版)	1896-1897年頃	ロシアの皇帝ニコライ2世の公式訪問についての挿絵本	31.0x23.5	M
11		龍文七宝花瓶	19世紀後半	有線七宝	82.3x38.0 (widestdiam)	M
12		花鳥文七宝花瓶	19世紀後半	有線七宝	24.5x11.9 (widestdiam)	M
13		ヤドリギをモチーフとした浮き出し模様の真鍮製小箱	19世紀	真鍮	8.4x10.3x5.6	M
14		中国製の刺繍：太鼓と雄鶏	19世紀	絹糸による刺繍・絹	78.5x73.7	M
15	ジークフリート・ビンゲ	月刊誌『芸術の日本』(パリ、シャルル・ジロー出版)	1888年	挿絵入り雑誌	33.0x260x4.0	M

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
16	揚洲周延	温故東之花一旧失火際奥方御立退之図	1889年	多色木版画(三枚続)	Eachprint37.5x25.0	M
17	オーウェン・ジョーンズ	仏語版『装飾の文法』図37、71	1865年 * 原本は、1856年 ロンドンにて刊行	挿絵本(カラーリトグラフ)	35.0x25.0x5.0	M
18	ウィリアム・ホガース	《放蕩息子一代記》図7	1735年	エングレーヴィング・紙	31.8x38.7	M

2. ミュシャの手法とコミュニケーションの美学

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
19	アルフォンス・ミュシャ	ミュシャ自画像、ミュンヘンのアトリエにて	1886年頃	油彩・カンヴァス	46.0x61.0	M
20	アルフォンス・ミュシャ	ミュシャ自画像、パリのアトリエにて	1890年頃	インク、淡彩、白のハイライト・紙	25.0x21.5	M
21	アルフォンス・ミュシャ	『ファンタズ』誌：表紙デザイン	1882年	インク、水彩・紙	46.0x28.8	M
22	アルフォンス・ミュシャ	風刺雑誌のためのページレイアウト	1880年代	インク・紙	34.0x21.0	M
23	アルフォンス・ミュシャ	風刺雑誌のためのページレイアウト、コマ割マンガ風	1880年代	インク・紙	46.0x29.0	M
24-a	アルフォンス・ミュシャ	カリカチュア	1882年	インク・紙	27.0x20.0	M
24-b	アルフォンス・ミュシャ	カリカチュア	1882年	インク・紙	22.0x24.0	M
25	アルフォンス・ミュシャ	『クロコディール』誌：タイトルロゴ	1885年	インク・厚紙	20.0x32.0	M
26	アルフォンス・ミュシャ	『クロコディール』誌：表紙デザイン	1888年	インク、鉛筆、水彩、金・紙	45.6x29.6	M
27	アルフォンス・ミュシャ	男性と手の動きを表す習作	1880年代後半	鉛筆・紙	24.0x16.0	M
28	アルフォンス・ミュシャ	新聞売りの少年のスケッチ	1891年	鉛筆・紙	25.0x20.0	M
29	アルフォンス・ミュシャ	自分の腕に頭を乗せて寄りかかる少女の習作	1890年代初め	鉛筆・紙	27.0x19.0	M
30	アルフォンス・ミュシャ	夜会服を着た男性の習作	1890年代初め	鉛筆・厚紙	63.0x47.7	M
31	アルフォンス・ミュシャ	座る女性の習作	1890年代初め	鉛筆・厚紙	67.0x51.4	M
32	アルフォンス・ミュシャ	幻影：『ファウスト』の挿絵の習作	1888年頃	木炭、チョーク・紙	82.8x60.5	M
33	アルフォンス・ミュシャ	グザヴィエ・マルミエ(1808-1892)著『おばあちゃんのお伽話』(パリ、フェルヌス出版/ジュウヴェ商会出版)	1892年	挿絵本	31.0x23.0	M
34	アルフォンス・ミュシャ	『おばあちゃんのお伽話』の口絵のための老婆の習作	1890-1891年頃	鉛筆・紙	32.6x24.4	M
35	アルフォンス・ミュシャ	美しい宮殿：『おばあちゃんのお伽話』の挿絵の習作	1891年	インク、グアッシュ・紙	29.0x21.5	M
36	アルフォンス・ミュシャ	シャルル・セニョボス(1854-1942)著『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』(パリ、アルマン・コラン出版)	1898年	ミュシャによる33点のイラスト入り挿絵本	33.0x26.0	M
37	アルフォンス・ミュシャ	ヴァレンシユタインの暗殺：『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の習作	1890年代半ば	インク・紙	16.0x23.0	M
38	アルフォンス・ミュシャ	ゲーテとシラー：『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の習作	1897年	インク、グアッシュ・紙	48.0x36.0	M
39	アルフォンス・ミュシャ	シャルル・セニョボス著『スペインの歴史の諸場面とエピソード』(未完)の挿絵の習作	1898年頃	油彩・板	57.0x42.0	M
40	アルフォンス・ミュシャ	エミール・ケバル(1839-1908)著『クリスマスと復活祭を告げる鐘』(パリ、F. シャンブノワとH. ピアッツァ出版)	1900年	挿絵本	31.0x23.5	M
41-abcd	アルフォンス・ミュシャ	『クリスマスと復活祭を告げる鐘』：ルネット用の4つのスケッチ	1899-1900年頃	鉛筆・厚紙	Eachdrawing80x150	M
42-a	アルフォンス・ミュシャ	『レスタンプ・モデルヌ(現代版画)』誌：表紙(1897年10月号No. 6/シャルル・マソンとH. ピアッツァ、F. シャンブノワ出版)	1897年	オリジナル・リトグラフ版画集の表紙	41.0x31.0	M
42-b	アルフォンス・ミュシャ	サロメ：『レスタンプ・モデルヌ(現代版画)』誌(1897年6月号No. 2)	1897年	カラーリトグラフ	41.0x31.0	M
43	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ(12カ月)：文芸と絵画表現』誌：1899年1月号表紙デザイン	1898年	鉛筆、インク、淡彩・紙	37.0x26.7	M
44	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ(12カ月)：文芸と絵画表現』誌(1903年1月号-6月号)	1903年	雑誌6誌が合本された上製本	25.5x18.3x4.0	M
45-abcd	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ(12カ月)』誌：2月(未使用)、10月、11月、12月のデザイン	1899年	鉛筆、淡彩、白のハイライト・四角い厚紙	Diameterofeach21.0	M
46	アルフォンス・ミュシャ	『イリュストラシオン』誌：表紙(1896-1897年クリスマス特別号/パリ、レダクション出版)	1896年	オフセット	39.0x29.0	M
47	アルフォンス・ミュシャ	『オー・カルティエ・ラタン』誌：表紙(創刊6周年記念特別号/パリ、シュトラウス出版)	1898年	カラーリトグラフ	43.0x32.0	M
48	アルフォンス・ミュシャ	『オー・カルティエ・ラタン』誌：表紙(1900年クリスマス特別号/パリ、シュトラウス出版)	1900年	カラーリトグラフ	43.0x32.0	M
49	アルフォンス・ミュシャ	『ウィンナ・シック』誌：表紙(1905年1月号No. 153/フィンケルシュタイン兄弟商会(在ウィーン、パリ、ベルリン、ロンドン)とS.ライナハ(在ニューヨーク)出版)	1904年 (表紙デザインは1902年)	カラーリトグラフ	40.0x30.0	M
50	アルフォンス・ミュシャ	『ハースト・インターナショナル』誌：表紙(1922年1月号/ニューヨーク、ハースト・インターナショナル出版)	1921年	オフセット	36.0x27.0	M
51	アルフォンス・ミュシャ	『ハースト・インターナショナル』誌：表紙(1922年5月号/ニューヨーク、ハースト・インターナショナル出版)	1922年	オフセット	50.5x39.3	M

3. ミュシャ様式のイデオム

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
52	アルフォンス・ミュシャ	ジスモンダ	1894年	カラーリトグラフ	216.0x74.2	M
53	アルフォンス・ミュシャ	ロレンザッチオ	1896年	カラーリトグラフ	203.7x76.0	M
54	アルフォンス・ミュシャ	ハムレット	1899年	カラーリトグラフ	207.5x76.5	M
55	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナルを描いたランス香水「ロド」のポスター習作	1896年	鉛筆、水彩、金・紙	19.5x5.5	M
56	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナル：立ち姿の習作	1896年頃	ペン、インク・紙	41.5x26.0	M
57-a	アルフォンス・ミュシャ	《ロレンザッチオ》のためのトルソー、ドレープ表現の習作	1896年	鉛筆・紙	25.0x32.0	M
57-b	アルフォンス・ミュシャ	《ロレンザッチオ》のためのトルソー、腕、足の習作	1896年	鉛筆・紙	47.0x31.0	M
58	アルフォンス・ミュシャ	ドレープ表現の習作	1890年代	鉛筆、水彩・紙	35.0x26.0	M
59	アルフォンス・ミュシャ	ドレープ表現の習作	1890年代	鉛筆・紙	32.0x51.0	M

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
60	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナル：彼女の崇拜者と友人からの敬意を表して	1896年	カラーリトグラフ	69.0x51.0	M
61	アルフォンス・ミュシャ	ロベール・ド・フレルス(1872-1927)著『トリポリの姫君イルゼ』プロモーション版・表紙	1897年		34.0x25.7	M
62	アドルフ・アルマン・トリュフィエ(1899-1937年頃活動)	ミュシャ作『遠国の姫君』に倣った照明器具	1900年頃	金メッキしたブロンズ：マラカイト、アメジスト、ラピスラズリのカポシオン；ナシの木の台座	42.0x27.0x11.0 Base:51x36x13	M
63	アルフォンス・ミュシャ	『遠国の姫君』に扮するサラ・ベルナル：「ルフェーヴル＝ユティル」ビスケット社のためのポスター	1903年	カラーリトグラフ	72.0x53.0	M
64	アルフォンス・ミュシャ	ジョブ	1896年	カラーリトグラフ	66.7x46.4	M
65	アルフォンス・ミュシャ	サロン・デ・サン 第20回展	1896年	カラーリトグラフ	63.0x43.0	M
66	アルフォンス・ミュシャ	サロン・デ・サン ミュシャ展	1897年	カラーリトグラフ	66.2x46.0	M
67	アルフォンス・ミュシャ	リュイナル・シャンパン	1896年	カラーリトグラフ	173.0x59.0	M
68	アルフォンス・ミュシャ	トラピスティース	1897年	カラーリトグラフ	206.0x77.0	M
69	アルフォンス・ミュシャ	「ルフェーヴル＝ユティル」ビスケット社：1897年用プロモーション・カレンダー	1896年	カラーリトグラフ	44.0x32.5	M
70	アルフォンス・ミュシャ	黄道十二宮	1896年	カラーリトグラフ	65.7x48.2	M
71	アルフォンス・ミュシャ	夢想	1898年	カラーリトグラフ	72.7x55.2	M
72-a	アルフォンス・ミュシャ	絵画一連作(四芸術)より	1899年	カラーリトグラフ	60.0x38.0	M
72-b	アルフォンス・ミュシャ	詩一連作(四芸術)より	1899年	カラーリトグラフ	60.0x38.0	M
73	アルフォンス・ミュシャ	スラヴィア：プラハ、スラヴィア保険相互銀行のためのポスター	1907年	カラーリトグラフ	54.0x36.0	M
74-a	アルフォンス・ミュシャ	トパーズ一連作(四つの宝石)より	1900年	カラーリトグラフ	67.2x30.0	M
74-b	アルフォンス・ミュシャ	ルビー一連作(四つの宝石)より	1900年	カラーリトグラフ	67.2x30.0	M
74-c	アルフォンス・ミュシャ	アメジスト一連作(四つの宝石)より	1900年	カラーリトグラフ	67.2x30.0	M
74-d	アルフォンス・ミュシャ	エメラルド一連作(四つの宝石)より	1900年	カラーリトグラフ	67.2x30.0	M
75-a	アルフォンス・ミュシャ	崖に咲くヒース	1902年	カラーリトグラフ	74.0x35.0	M
75-b	アルフォンス・ミュシャ	浜辺のアザミ	1902年	カラーリトグラフ	74.0x35.0	M
76	アルフォンス・ミュシャ	カサン・フィス印刷所	1896年	カラーリトグラフ	174.7x68.4	M
77	アルフォンス・ミュシャ	ベネディクティン	1898年	カラーリトグラフ	205.7x77	M
78	アルフォンス・ミュシャ	アーメン：『主の祈り』の最終ページ(バリ、H. ビアツァ出版)	1899年	カラーリトグラフ	40.4x30.2	M
79	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』のためのデザイン	1900-1901年頃	赤と青の鉛筆・紙	33.6x51.7	M
80-a	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図6(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1901年	カラーステンシル	25.0x21.6	M
80-b	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図18(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1901年	カラーステンシル	25.0x21.6	M
80-c	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図42(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1901年	カラーステンシル	21.6x25.0	M
80-d	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図54(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1901年	カラーステンシル	25.0x21.6	M
81-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図13(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1902年	カラーリトグラフ	46.0x33.0	M
81-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図33(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1902年	カラーリトグラフ	46.0x33.0	M
81-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図46(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1902年	カラーリトグラフ	46.0x33.0	M
81-d	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図47(リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版)	1902年	カラーリトグラフ	46.0x33.0	M
82	アルフォンス・ミュシャ	三つの季節：春、夏、冬	1898年頃	カラーリトグラフ	62.9x43.2	M
83-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』(1905年)図3の最終習作	1904年	鉛筆、白のハイライト・紙	48.0x36.0	M
83-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』(1905年)図20の最終習作	1904年	鉛筆、水彩、白のハイライト・紙	48.0x36.0	M
83-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』(1905年)図26の最終習作	1904年	鉛筆、白のハイライト・紙	68.0x54.0	M
84	アルフォンス・ミュシャ	バレエの動きを捉えた習作	1901年頃	鉛筆・紙	12.0x15.6	M
85	アルフォンス・ミュシャ	裸婦の習作	1901年頃	鉛筆・紙	21.0x17.5	M
86	アルフォンス・ミュシャ	走る少年の習作	1895年	鉛筆・厚紙	26.9x18.2	M
87	アルフォンス・ミュシャ	ストレッチをする男性の習作2点	1895年頃	鉛筆・厚紙	25.7x21.2	M
88	アルフォンス・ミュシャ	後ろに体を曲げる男性の習作	1910年頃	鉛筆、赤いチョークのハイライト・紙	47.0x62.0	M
89	アルフォンス・ミュシャ	歩く女性の習作	1900年頃	木炭、バステル・灰色の紙	56.5x30.0	M
90	アルフォンス・ミュシャ	冬の景色の中にある少女	1900年頃	木炭、バステル・紙	64.0x46.0	M
91	アルフォンス・ミュシャ	聖夜	1900年頃	バステル、クレヨン・紙	60.0x45.5	M
92	アルフォンス・ミュシャ	『クリスマスと復活祭を告げる鐘』のための男性の頭部習作(カリカチュア風)	1900年	木炭、クレヨン・紙	60.9x47.2	M
93	アルフォンス・ミュシャ	邪悪の寓意(スラヴ民族を襲撃する敵)(スラヴ叙事詩)第20番(究極のスラヴ民族)(1926年)の習作	1926年頃	鉛筆・紙	31.0x24.0	M
94	アルフォンス・ミュシャ	チェコの音楽界のバンテオン：ポスター／カレンダー	1929年	カラーリトグラフ	59.0x45.0	M
95	アルフォンス・ミュシャ	闘志(ヤン・ジシュカ)：市長ホールのペンデンティブ画のための大型習作	1911年	インク、グアッシュ、銀・紙	235.0x142.2	M
96-a	アルフォンス・ミュシャ	正義(ヤン・フス)：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年	油彩・カンヴァス	43.0x31.0	M
96-b	アルフォンス・ミュシャ	不屈さ(ドゥペーのロハーチ)：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年	油彩・カンヴァス	43.0x31.0	M
96-c	アルフォンス・ミュシャ	警戒(ホドヴェー)：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年	油彩・カンヴァス	43.0x31.0	M
96-d	アルフォンス・ミュシャ	独立(ボジエブラッドのイェジ)：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年	油彩・カンヴァス	43.0x31.0	M

4. よみがえるアール・ヌーヴォーとカウンターカルチャー

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法(cm)	所蔵
97	アルフォンス・ミュシャ	椿姫	1896年	カラーリトグラフ	207.3x76.2	M
98	アルフォンス・ミュシャ	ユリー連作(4つの花)より	1898年	カラーリトグラフ	103.5x43.3	M
99	アルフォンス・ミュシャ	ジョブ	1898年	カラーリトグラフ	149.2x101.0	M
100	アルフォンス・ミュシャ	舞踏一連作(四芸術)より	1898年	カラーリトグラフ	60.0x38.0	M
101	アルフォンス・ミュシャ	ツタ	1901年	カラーリトグラフ	53.0x39.5	M
102-a	アルフォンス・ミュシャ	『主の祈り』第7節の見出しページ	1899年	カラーリトグラフ	40.4x30.2	M
102-b	アルフォンス・ミュシャ	『主の祈り』第7節の寓意画	1899年	グラビア印刷	40.4x30.2	M
103-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図8	1902年	リトグラフ	46.0x33.0	M
103-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図10	1902年	リトグラフ	46.0x33.0	M
103-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図45	1902年	カラーリトグラフ	46.0x33.0	M
104-a	アルフォンス・ミュシャ	北極星一連作(月と星)より	1902年	カラーリトグラフ	82.0x33.0	M
105-a	ジャケット・デザイン： ハブシャシュ & ザ・カ ラード・コート	「スーパーナチュラル・フェアリー・テイルス」 (アート/アイランド・レコード)	1967年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-b	ジャケット・デザイン：マル ドウィン・トゥーティル	「ゴーン・トゥ・アース」(パークレイ・ジェイム ス・ハーヴェスト/ポリドール)	1977年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-c	ジャケット・デザイン： ボブ・マス	「ザ・コレクターズ」(ザ・コレクターズ/ワー ナー・ブラザーズ=セヴン・アーツ・レコード)	1968年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-d	—	「ザ・サン、ムーン&ハーブス」(ドクター・ジョ ン/アトコ・レコード)	1971年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-e	ジャケット・デザイン： リック・グリフィン	「アオクソモクソア」(グレイトフル・デッド/ワー ナー・ブラザーズ=セヴン・アーツ・レコード)	1969年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-f	ジャケット・デザイン： オールドン・ケリー	ライブ盤「スカル&ローゼス」(グレイトフル・ デッド/ワーナー・ブラザーズ・レコード)	1971年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-g	ジャケット・デザイン： ヒュー・ブラウン	「ブルース・フォー・アラー」(グレイトフル・ デッド/グレイトフル・デッド・レコード)	1975年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-h	ジャケット・デザイン： クレイグ・ブラウン	「ジブシー」(ジブシー/メトロメディア・レコード)	1970年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-i	ジャケット・デザイン： バーニー・パブルス	「スペース・リチュアル(宇宙の祭典)」(ホークウイ ンド/ユナイテッド・アーティスト・レコード)	1972年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-j	ジャケット・デザイン： ザ・フル(マライケ・ コウガー)	「ザ・ファイヴ・サウザンド・スピリッツ・オ フ・ザ・レイヤーズ・オブ・ジ・オニオン」(イン クレディブル・ストリング・バンド/エレクトラ)	1967年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-k	ジャケット・デザイン：ピー ト(ピーター)・シンフィールド	「リザード」(キング・クリムゾン/アトラン ティック)	1970年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-l	—	「ザ・ファースト・モニュメント」(モニュメント ツィオール)/ピーコン・レコード,1971年；プ ラック・ウイドウ・レコード(限定版)、イタリア、 2000年 (初版は1971年)	2000年 (初版は1971年)	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-m	—	「エミリー・スモールの遙かなる世界」(ピカデ リー・ライン(のちのエドワーズ・ハンド)/C B S,1967年；ライトニング・ツリー・レコード(再 発版)、イギリス,2006年)	2006年 (初版は1967年)	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-n	ジャケット・デザイン： トム・ウィルクス	「フラワーズ」(ザ・ローリング・ストーンズ/ロ ンドン・レコード)	1967年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-o	ジャケット・デザイン： ディーン・トレンス/キ ティホーク・グラフィックス	「レット・ザ・サンシャイン・イン」(ダイアナ・ ロスとザ・スプリームズ/タムラ・モータウン)	1969年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-p	ジャケット・デザイン： ジム・フィッツパトリック	「ジョニー・ザ・フォックス」(シン・リジィ/ ヴァーティゴ)	1976年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-q	—	「フーター・ロール？」(ハーワード・ウェルズ& ジェリー・ガルシア/ダグラス、CBS)	1971年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
105-r	ジャケット・デザイン： ロジャー・ディーン	「イエスソングス」(イエス/アトランティック)	1973年	LP レコード・ジャケット	31.5x31.5	M
106	バーニー・パブルス	ホークウインド「ラブ&ピース」(ユナイテッド・ アーティスト・レコード)(ホークウインドのため の宣伝用ポスター)	1974年(初版)	オフセット・リトグラフ	88.0x50.5	M
107	デヴィッド・エドワ ード・バード	ザ・ローリング・ストーンズ コンサート(1969 年のツアーのためのポスター)	1969年(初版)	オフセット・リトグラフ	55.0x35.5	M
108	デヴィッド・エドワ ード・バード	ジーザス・クライスト・スーパースター	1971年(初版)	オフセット・リトグラフ	76.5x40.7	M
109	デヴィッド・エドワ ード・バード	ニューヨーク、トリトン・ギャラリーでの個展—ダ ンディーとしてのセルフポートレート(個展のため の宣伝用ポスター)	1971年(初版)	オフセット・リトグラフ	148.0x52.0	M
110	マライケ・コウガー	ラヴ・ライフ	1966年	オフセット・リトグラフ	58.0x45.0	M
111	ザ・フルとマライ ケ・コウガー	ブック・ア・トリップ	1967年(第2 刷)	オフセット・リトグラフ	45.7x61.0	M
112	ハブシャシュ&ザ・カラード・ コート(マイケル・イングリ ッシュ&ナイジェル・ウエイマス)	ジミ・ヘンドリックス・エクスペリエンス コン サート(1967年6月20-26日、フィルモア・オーデ ィトリウム)	1967年	シルクスクリーン・プリント	75.0x49.0	M
113	ハブシャシュ&ザ・カラード・ コート(マイケル・イングリ ッシュ&ナイジェル・ウエイマス)	ピンク・フロイド コンサート(1967年7月28日、 CIA-UFOクラブ)	1967年	シルクスクリーン・プリント	75.0x50.0	M
114	ハブシャシュ&ザ・カラード・ コート(マイケル・イングリ ッシュ&ナイジェル・ウエイマス)	ピンク・フロイド、ジミ・ヘンドリックス コンサ ート(1967年10月1日&8日、サヴィル・シアター)	1967年	オフセット・リトグラフ	75.0x49.0	M
115	ボブ・マス	ドアーズ コンサート(1967年7月20-22日、ヴィクトリ ア・アリーナ、ヴィクトリア/ダンテズ・インフェル ノ、ヴァンクーヴァー、ブリティッシュ・コロンビア州)	1967年	オフセット・リトグラフ	61.0x43.0	M
116	ボブ・マス	フィッシュャーウーマン	1967年	オフセット・リトグラフ	60.5x37.0	M
117	ボブ・マス	キャンド・ヒート：2005年ワールド・ブギ・ツアー	2005年(初版)	オフセット・リトグラフ	61.0x32.0	M
118	スタンレー・マウス& オールドン・ケリー	ジェファーソン・エアプレイン コンサート 1966年11月6日、フィルモア・オーディトリウム	1980年代(第2刷 /初版は1966年)	オフセット・リトグラフ	53.2x35.6	M

no.	作家名	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)	所蔵
119	スタンレー・マウス&オールドトン・ケリー	ジム・クウェスキ・ジャグ・バンド コンサート(1966年10月7-8日、アヴァロン・ホール)／サンフランシスコ、バインドウィード・プレスによるオリジナル版	1966年頃(第3刷)	オフセット・リトグラフ	51.0x35.4	M
120	スタンレー・マウス&オールドトン・ケリー	グレイトフル・デッド コンサート(1967年1月27-28日、アヴァロン・ホール)	1967年(第2刷)	オフセット・リトグラフ	51.3x35.4	M
121	ウェス・ウィルソン	ザ・サウンド：ジェファーソン・エアプレイン／マディ・ウォーターズ、1966年9月23,24,30日&10月1日、ウィンターランド／バターフィールド・プレス・バンド、1966年9月25日&10月2日、フィルモア・オーデイトリアム	1966年(第3版)	オフセット・リトグラフ	61.6x33.7	M
122	ハブシャシ&ザ・カラード・コート(マイケル・イングリッシュ&ナイジェル・ウェイマス)	『オズ』誌No. 4(1967年6月)折込ポスター	1967年	オフセット・リトグラフ	29.7x21 (closed) 82.6x29.7 (openedout)	M
123	マーティン・シャープ	『オズ』誌No. 7(1967年10月)表紙(ボブ・ディラン特集)	1967年	オフセット・リトグラフ	29.7x21.0	M
124	クリス・パチャロ	『ニュー・アベンジャーズ』(Vol. 11, No. 52A／マーベル・コミックス)	2005年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
125	ジョン・タイラー・クリストファー	『ノヴァ』(No. 36B／マーベル・コミックス)	2007年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
126	アレー・ガルザ	『デジャー・ソリス&火星の白い狼』(No. 1／ダイナマイト・エンターテイメント)	2012年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
127	表紙デザイン：マイケル・ウィリアム・カルタ	『ザ・グランド・アドベンチャー：SFの名作』(パークレー・ブックス)表紙	1984年	本	22.2x15.0x2.0	M
128-ab	表紙デザインと挿絵：マイケル・ウィリアム・カルタ	『マイ・ネーム・イズ・パリス』(ミステリーシリーズ4巻のうち2冊／ランダムハウス)	1987年	本	21.6x14.5x1.5each	M
129	マイケル・ウィリアム・カルタ	『ヘッジ・ナイト』(No. 1B／イメージ・コミックス)	2003年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
130	表紙デザイン：マイケル・ウィリアム・カルタ	『バーム・イン・ギリアド』(グースツリー・プレス、マインドワーム・プレス)	2007年	本	24.5x17.0x1.2	M
131	テリー・ムーア	『ストレンジジャーズ・イン・パラダイス』(Vol. 3, No. 52／アブストラクト・ステュディオ)	1996年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
132	テリー・ムーア	『ストレンジジャーズ・イン・パラダイス』(Vol. 3, No. 53／アブストラクト・ステュディオ)	1996年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
133	リチャード・オルティス	『レディ・デス』(No. 21、オースティンV I P エディション／アバター・プレス)	2014年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
134	ジョー・ケサダ	『ニンジャック』(Vol. 1, No. 3／ヴァリアント・コミックス)	1994年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
135	ジョー・ケサダ	『デアデビル』(No. 5／マーベル・コミックス)	1998年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
136	ジョー・ケサダ	『ウルヴァリン：オリジンズ』(No. 5A、マーベル・コミックス)	2006年	コミック・ブック	25.7x16.7	M
137-a	バリー・ウィンザー=スミス	ガイア：『シビュラ』図版1	1979年	カラーリトグラフ	34.5x41.5	M
137-b	バリー・ウィンザー=スミス	ファイヤー：『シビュラ』図版3	1979年	カラーリトグラフ	34.5x41.5	M

5. マンガの新たな流れと美の探究

no.	作家名	作品名	制作年	技法	Dimensions (cm)	所蔵
138	アルフォンス・ミュシャ	トスカ	1899年	カラーリトグラフ	103.0x36.0	M
139	アルフォンス・ミュシャ	アカデミー・コラロッシ「ミュシャ講座」	1900年	カラーリトグラフ	64.0x27.0	M
140	アルフォンス・ミュシャ	『ラ・プリュム』誌 (No. 197, 1897年7月1日発行) — ミュシャ特集号	1897年	カラーリトグラフ	24.5x18.0	M
141	表紙デザイン：藤島武二	『みだれ髪』(与謝野晶子)	—	復刻版(日本近代文学館、1968年)	19.2x8.5x0.8	M
142-a	表紙デザイン：一條成美	『明星』(明治33年第7号)	1900年	文芸誌	26.0x17.4	P
142-b	表紙デザイン：藤島武二	『明星』(明治34年第11号)	1901年	文芸誌	26.0x17.4	P
142-c	表紙デザイン：藤島武二	『明星』(明治35年第7号)	1902年	文芸誌	26.0x17.4	P
142-d	表紙デザイン：藤島武二	『明星』(明治35年第7号)メモ：142cの表4	1902年	文芸誌	26.0x17.4	P
143-a	表紙デザイン：一條成美	『新声』(明治35年第7編第1号)	1902年	文芸誌	22.2x15.0	P
143-b	表紙デザイン：本田穆堂	『新声』(明治35年第14編第2号)	1902年	文芸誌	25.2x17.6	P
144-a	表紙デザイン：石川寅治	『新古文林』(明治38年第1巻第3号)	1905年	文芸誌	22.2x15.0	P
144-b	表紙デザイン：山下繁雄	『新古談叢』(明治38年「新古文林」臨時増刊第1巻第4号)	1905年	文芸誌	22.2x15.0	P
145-a	表紙デザイン：織田東馬	『文章世界』(明治39年第1巻第1号)	1906年	文芸誌	22.2x15.0	P
145-b	表紙デザイン：橋本邦助	『文章世界』(明治40年第2巻第7号)	1907年	文芸誌	22.2x15.0	P
146	アルフォンス・ミュシャ	民衆美術協会	1897年	カラーリトグラフ	62.5x46.0	M
147	アルフォンス・ミュシャ	メデア	1898年	カラーリトグラフ	206.0x76.0	M
148	アルフォンス・ミュシャ	モナコ・モンテカルロ	1897年	カラーリトグラフ	110.5x76.5	M
149	アルフォンス・ミュシャ	《モナコ・モンテカルロ》：構図のための習作	1897年	鉛筆・紙	52.0x35.0	M
150	アルフォンス・ミュシャ	《詩一連作(四芸術)より》：輪郭習作	1898年	鉛筆、インク・紙	60.0x38.0	M
151	アルフォンス・ミュシャ	《遠国の姫君に扮するサラ・ベルナル》：サラ・ベルナル劇場を飾る装飾パネル(1899年)、『装飾と芸術—現代芸術の月刊誌』(7号、1900年)の掲載図版	1899年頃	カラーリトグラフ	31.3x20.3	M
152	アルフォンス・ミュシャ	《花》：習作	1897年	鉛筆、インク、水彩・紙	71.0x44.0	M
153	アルフォンス・ミュシャ	《睡蓮》：装飾パネルのための習作	1898年	鉛筆、水彩、金箔・紙	39.0x54.0	M
154	アルフォンス・ミュシャ	《パリ・フランス》：債券デザイン	1900年頃	鉛筆・紙	64.0x50.0	M
155	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』(1905年)図36の最終習作	1904年	鉛筆、グアッシュ、白のハイライト・紙	52.0x40.0	M
156	アルフォンス・ミュシャ	ヒヤシンス姫	1911年	カラーリトグラフ	126.5x83.5	M
157-a,b,c	水野英子	『ファイヤー！』(『週刊セブンティーン』1969年1号-1971年28号連載・扉用イラスト／集英社)(複製)	オリジナル：1969年1月-1971年	オリジナル：開明墨汁・紙	each:21.0x29.7	P
158	水野英子	『トリスタンとイゾルデ』(『月刊セブンティーン』1975年1月号絵物語／集英社)(複製)	オリジナル：1975年	オリジナル：開明墨汁・メタリック紙	21.0x29.7	P

no.	作家名	作品名	制作年	技法	Dimensions (cm)	所蔵
159	水野英子	「オンディエヌ」(音楽劇LPレコード「星のオンディエヌ」折込ポスター用イラスト)	1981年	開明墨汁、水彩、ポスターカラー・ミューズコットン紙	73.0x38.0	P
160	水野英子	「エリザベート」(月刊「CREA」1993年11月号-1996年2月号連載・扉用イラスト/文藝春秋)(複製)	オリジナル:1993年11月-1996年2月	オリジナル:開明墨汁、水彩・紙	21.0x29.7	P
161	水野英子	《シェヘラザード》(ロシアのパレエダンサー、ファルファ・ルジマトフのイメージ)(複製)	オリジナル:2003年	オリジナル:開明墨汁、ポスターカラー、金・ミューズコットン紙	21.0x29.7	P
162	山岸涼子	「ティンカー・ベル」(『デラックスマーガレット』1973年8月号の号扉用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1973年	カラーインク・紙	36.2x51.3	P
163	山岸涼子	《真夏の夜の夢》「アラバスク」(『花とゆめ』1975年4月9号付録ポスター用イラスト/白泉社)(複製)	オリジナル:1975年	カラーインク・紙	51.3x36.2	P
164	山岸涼子	「黒のヘレネー」(『花とゆめ』1979年9月11号扉用イラスト/白泉社)(複製)	オリジナル:1979年	カラーインク・紙	36.0x25.5	P
165	山岸涼子	《迦陵頻伽》「日出処の天子」(『LaLa』1980年11月号扉用イラスト/白泉社)(複製)	オリジナル:1980年	カラーインク・紙	36.5x51.5	P
166	山岸涼子	《孔雀に乗った王子》「日出処の天子」(『LaLa』1984年6月号扉用イラスト/白泉社)(複製)	オリジナル:1984年	カラーインク・紙	36.2x25.8	P
167	山岸涼子	《ドン・キホーテ》(『テレシコラ/舞姫』6巻表紙用イラスト/メディアファクター・KADOKAWA)(複製)	オリジナル:2004年	カラーインク・紙	36.4x25.6	P
168	花郁悠紀子	「夢ゆり育て」扉用イラスト(『ビバプリンセス』1977年秋の号/秋田書店)(複製)	オリジナル:1977年	カラーインク、透明水彩・キャンソンボード	36.2x25.5	P
169	花郁悠紀子	「不死の花」(『プリンセス』1979年8月号/秋田書店)(複製)	オリジナル:1979年	丸ペン、墨汁・上質紙	36.2x25.7	P
170	花郁悠紀子	木花佐久也(複製)	オリジナル:1979年	カラーインク、透明水彩・キャンソンボード	29.8x30.0	P
171	花郁悠紀子	「夢ゆり育て」(秋田書店・プリンセスコミックス)カバーイラスト	1980年	カラーインク、透明水彩・BBケント紙	27.4x25.7	P
172	松苗あけみ	《ピンクフレグランス》(『月刊ぶ〜け』懸賞カレンダー用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1980年代初め	カラーインク・紙	34.0x36.0	P
173	松苗あけみ	《星座の少女》(『月刊ぶ〜け』1989年9月号表紙用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1989年	カラーインク・紙	36.3x54.0	P
174	松苗あけみ	《黒と菊の扇子》(『月刊ぶ〜け』1991年2月号表紙用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1990年	カラーインク・紙	39.0x54.0	P
175	松苗あけみ	《青空とチュウリップ》「ロマンスの王国」(『月刊ぶ〜け』1991年4月号表紙用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1991年	カラーインク・紙	36.9x54.0	P
176	松苗あけみ	《小さな玉座の百合》(『月刊ぶ〜け』口絵用イラスト/集英社)(複製)	オリジナル:1996年	カラーインク・紙	25.8x26.8	P
177	松苗あけみ	《フラワーマジシャン》(『松苗あけみぬり絵 漫画家生活30周年記念』表紙用イラスト/宙出版)	2007年	カラーインク・紙	39.1x27.0	P
178	波津彬子	「牡丹灯籠」扉用イラスト(『メヌエット』1989年3号/大陸書房)(複製)	オリジナル:1989年	カラーインク、透明水彩・キャンソンボード	36.2x47.4	P
179	波津彬子	「秋霖の忌」扉用イラスト(『Mystery I』1991年Vol.16/宙出版)	1991年	カラーインク、透明水彩・キャンソンボード	36.2x47.6	P
180	波津彬子	「夜のやさしい手」(白泉社・ジェッツコミックス)カバーイラスト(複製)	オリジナル:1999年	カラーインク、透明水彩、染料・キャンソンボード	36.1x51.3	P
181-a,b,c	波津彬子	「星のファンタジー 1・2・3」(幻冬舎コミックス)カバーイラスト(複製)	オリジナル:2005年	カラーインク、透明水彩、染料・キャンソンボード	each:36.3x25.8	P
182	波津彬子	「海神別荘」(「鏡花幻想 波津彬子原画展」ポスター用イラスト/泉鏡花記念館)(複製)	オリジナル:2007年	カラーインク、透明水彩、染料・キャンソンボード	62.6x44.4	P
183	天野喜孝	幻夢宮(複製)	オリジナル:1986年	アクリル、カラーインク・紙	72.8x53.8	P
184	天野喜孝	キルケ(複製)	オリジナル:1986年	オリジナル:アクリル、カラーインク・紙	76.5x56.7	P
185	天野喜孝	黎明一白虹	オリジナル:1987年	アクリル、カラーインク・紙	67.3x46.8	P
186	天野喜孝	騎神来たりぬ(複製)	オリジナル:1987年	オリジナル:アクリル、カラーインク、金・紙	99.3x75.7	P
187	天野喜孝	『アルスラーン戦記2 王子二人』(田中芳樹著/角川書店)のためのイラスト(複製)	オリジナル:1987年	オリジナル:アクリル、カラーインク・紙	67.6x50.9	P
188	天野喜孝	ファンタジーXIV 嵐神と冒険者(複製)	オリジナル:2010年	アクリル・紙	88.8x59.5	P
189	出渕裕	《聖戦》「ロードス島戦記」(月刊「ニュータイプ」1990年11月号付録ポスター用イラスト/角川書店)(複製)	オリジナル:1990年	鉛筆、水彩、リキテックス・イラストボード	51.4x36.2	P
190	出渕裕	《睡り》「ロードス島戦記」(アニメ「ロードス島戦記」レーザーディスク Vol. 2 ジャケット画)(複製)	オリジナル:1991年	鉛筆、カラーマーカー、水彩・紙	33.5x25.4	P
191-a,b,c	出渕裕	《森の乙女デイドリット》「ロードス島戦記」(アニメカタログ誌・綴込付録ポスター用イラスト)(複製) a:原画 b:影指定原画 c:セル画	オリジナル:1992年	a:鉛筆・紙、b:原画コピーに色鉛筆で彩色(塗り分け指示)、c:セルシートにアニメーションカラーで彩色	a.41.4x29.1 b.41.4x29.1 c.45.6x32.6	P
192	出渕裕	《吟遊詩人の記憶》「ロードス島戦記」(ロードス島戦記スペシャルCDパッケージ用カバーイラスト/角川書店)(複製)	オリジナル:1992年	鉛筆、リキテックス・イラストボード	51.4x72.3	P
193	出渕裕	《デイドリット》「ロードス島戦記」(1995年「出渕裕 ロードス島戦記」カレンダー用イラスト/角川書店)(複製)	オリジナル:1994年	鉛筆、カラーマーカー、水彩・紙	25.0x36.2	P
194	出渕裕	『ANAM ロードス島戦記』(出渕裕 ロードス島戦記画集表紙用イラスト/角川書店)	1999年	鉛筆、水彩、カラーマーカー・紙	37.5x22.3	P

Ⅲ 教育普及事業

1) 講演会 会場：多目的スタジオ 参加者数 140 名

回	実施日	講座名	講師	開催企画展	参加者数
1	令和2年8月1日(土) 午後2時～	対談 木原文庫の魅力	木原真人(医師、コレクター)、 上蘭四郎(笠岡市立竹喬美術館顧問)	うるわしき 美人画の世界	53
2	令和2年9月19日(土) 午後3時～	油彩画の修復～所蔵作品 を通して	富山恵介(修復研究所21)、 田中有沙子(当館学芸員)	今昔秘話展	27
3	令和2年9月22日(火・祝) 午後3時～	雪村庵と福聚寺	玄侑宗久(福聚寺住職)	今昔秘話展	60
合 計					140

2) 美術講座 会場：多目的スタジオ 参加者数 123 名

回	実施日	講座名	講師	開催企画展	参加者数
1	令和2年9月12日(土) 午後2時～	郡山ゆかりの作家たち	当館学芸課長 菅野洋人	今昔秘話展	33
2	令和3年2月20日(土) 午前10時～	ミュシャと日本 —『明星』からマンガまで	当館学芸員 永山多貴子	みんなの ミュシャ	42
3	令和3年2月27日(土) 午前10時～	ミュシャのポスター —魅惑のまなざしと花々	当館学芸員 永山多貴子	みんなの ミュシャ	48
合 計					123

3) 文化講座 会場：多目的スタジオ 参加者数 14 名

回	実施日	講座名	講師	参加者数
1	令和2年11月15日(日) 午前10時30分～午後4時	講演&ワークショップ 日本最古級ガラス工芸「玉枕」の ミニチュアをつくろう	牟田口章人(帝塚山大学客員教授) 西田紀子(飛鳥資料館学芸主任研究官)	14
合 計				14



上蘭四郎氏(左)・木原真人氏(右)(令和2年8月1日)



富山恵介氏(令和2年9月19日)



玄侑宗久氏(令和2年9月22日)



西田紀子氏(令和2年11月15日)

4) ミュージアム・シアター 会場：多目的スタジオ 参加者数 74 名

回	実施日	上映作品	監督・出演等	参加者数
1	令和2年11月14日(土) 午後2時～	ひなぎく (1966年/75分)	監督:ヴェラ・ヒティロヴァ 出演:イヴァナ・カルパノヴァ イトカ・チェルホヴァ ほか	34
2	令和2年11月21日(土) 午後2時～	アリス (1988年/86分)	監督・脚本・製作:ヤン・シュヴァンクマイエル 出演:クリスティーナ・コホウトヴァー ほか	40
合 計				74

5) ミュージアム・コンサート 参加者数 488 名

回	実施日	上演	出演者	参加者数
1	令和2年11月23日(月・祝) 開演:午後6時30分～	「圓谷俊貴チェンバロ・コンサート バッハ/ゴルトベルク変奏曲より」	圓谷俊貴(チェンバロ)、ゲスト: 秋本悠希(メゾソプラノ)	100
2	令和2年11月28日(土) 開演:午後5時～	山中千尋ピアノトリオコンサート みんなのミュシャとジャズ	山中千尋(ピアノ)、山本裕之 (ベース)、桃井裕範(ドラム)	388
合 計				488

会場：「圓谷俊貴チェンバロ・コンサート」/当館階段ホール
「山中千尋ピアノトリオコンサート」/けんしん郡山文化センター中ホール

6) オンライン・アトラライブ 参加者数 75 名

回	実施日	配信	出演者	参加者数
1	令和3年2月6日(土) 午後4時30分～	天野喜孝オンラインアトラライブ	出演:天野喜孝 進行:関あつし	75
合 計				75

※配信：LINE LIVE-VIEWING

7) 学校との連携事業

①第19回風土記の丘の美術展 ～郡山市内の小学生による作品展～
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

②第12回風土記の空 ～郡山市内の中学校美術部による作品展～

郡山市内の中学校が、美術部活動などにおいて制作した作品を美術館内に展示した。この展覧会は、美術館と中学校との連携と美術活動の活性化を目的に実施している、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学生による額装や展示等は行わなかった。

参加中学校/日和田中学校、行健中学校、守山中学校、郡山第五中学校、小原田中学校(計5校)

会 期：10月20日～11月23日

会 場：美術館ロビー

観覧者数：1,787名

③鑑賞学習対応

幼稚園1園50名 小学校22校1,051名 中学校9校595名

高等学校2校53名 大学・専門学校他15校521名

合計49校 2,270名

8) 対外協力

①博物館実習(1件)

期間：令和2年9月9日(水)～9月13日(日)

受入校及び実習生数：3校5名

上智大学 1名／ 東京学芸大学 1名／ 郡山女子大学短期大学部 3名

実習内容：作品の取扱(平面・立体)、各概論(収集・保存・展示・普及)、機器取扱(カメラ・温湿度計など)、
野外彫刻洗浄、ワークショップ補助、体験実習(ギャラリートーク、企画展立案及びプレゼンテーション)

9) 刊行物リスト

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー8ページ

第56号(令和2年7月30日発行)

記事

白瀧幾之助《編み物をする少女》	表紙
中山恵理「美しい日本の四季を楽しむ 懐かしい風景」	p.2
新田量子「時代を超えて受け継がれる名品たち」	p.3
石田智子(作家)「石田智子展」作品制作の足取り」	p.4
「令和元年度あらたに作品が収蔵されました」	p.6
Report(ワークショップ等)	p.7
INFORMATION、TOPICS	p.8

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー8ページ

第57号(令和2年11月12日発行)

記事

佐藤潤四郎《オブジェ・羊車》	表紙
新田量子「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術」	p.2
玄侑宗久(作家・福聚寺住職)「雪村と「山水」「風水」	p.4
鈴木誠一「潤四郎ふたたび」	p.6
Report(ワークショップ等)	p.7
INFORMATION、TOPICS	p.8

郡山市立美術館年報 平成31年度・令和元年度

A4判 72ページ(令和2年7月10日発行)

郡山市立美術館研究紀要 第10号

A4判 104ページ (令和3年3月26日発行)

鈴木誠一／佐藤潤四郎と日本近代工芸(2)～クラフトデザインの普及者として～

菅野洋人／明治期『時事新報』絵付録と信陽堂について

新田量子／J.M.W.ターナー《コニストンの荒地》《サン・ゴタル峠の下り道》における技法について

富岡進一／J.M.W.ターナー『イングランド南海岸』について

ザ・ルーフ・ミュージアム・カレンダー

A4判三つ折り、片面4色、片面1色

常設展示目録

「常設展示目録 第1期 令和2年5月13日～令和2年7月19日」B4判二つ折り、両面1色

「常設展示目録 第2期 令和2年7月22日～令和2年10月18日」B4判二つ折り、両面1色

「常設展示目録 第3期 令和2年10月21日～令和3年1月24日」B4判二つ折り、両面1色

「常設展示目録 第4期 令和3年1月27日～令和3年4月25日」B4判二つ折り、両面1色

ポスター、チラシ、パンフレット

うるわしき美人画の世界

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

郡山の美術「今昔秘話展」～雪村を中心に～

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

日本ガラス工芸の先達たち－藤七、鑛三、そして潤四郎

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色



ザ・ルーフ 第56号



ザ・ルーフ 第57号



カレンダー2020



年報 令和元年度



研究紀要 第10号

10) 館外での活動及び関連記事・報道

他機関からの委嘱

- ・杉原 聡：福島大学芸術による地域創造研究所客員研究員(平成21年度～)。
- ・中山恵理：福島県立美術館収集評価委員会委員(令和元年12月～)。
- ・富岡進一：郡山市上下水道局水道週間ポスター展審査委員。

市政きらめき出前講座講師

- ・菅野洋人「美術に関する教養講座」(中止)郡山市あさかの学園大学OB研修クラブ(ビッグアイ7F)令和2年5月26日(火)。
- ・菅野洋人「美術に関する教養講座」離れの宿よぎ埜(離れの宿よぎ埜 おもてなし教室)令和2年6月10日(水)。
- ・中山恵理「美術に関する教養講座」郡山市あさかの学園大学(ビッグアイ7F)令和2年7月10日(金)。
- ・菅野洋人「美術に関する教養講座」郡山市あさかの学園大学OB研修クラブ(ビッグアイ7F)令和2年10月6日(火)。
- ・菅野洋人「郡山ゆかりの美術講座」郡山市あさかの学園大学(ビッグアイ7F)令和3年2月5日(金)。

その他の出張講座

- ・永山多貴子「美術講座 アルフォンス・ミュシャのグラフィック作品」(日本大学東北高等学校、令和3年1月15日)。

関連記事

新聞

- ・「芸術文化 動画で楽しもう YouTube配信スタート」『福島民友』令和2年4月16日付。
- ・「公共施設も休館」『福島民友』令和2年4月18日付。
- ・「市有240施設が休館 新型コロナ防止来月10日まで、市役所は開庁」『福島民友』令和2年4月19日付。
- ・「郡山市立美術館 臨時休館のお知らせ」『リビング郡山』令和2年4月24日付。
- ・「郡山市立美術館 臨時休館のお知らせ」『リビング福島』令和2年4月24日付。
- ・「郡山市立美術館 臨時休館のお知らせ」『週間郡山ザ・ウィークリー』令和2年4月25日付。
- ・「郡山市立美術館 臨時休館のお知らせ」『リビング郡山』令和2年5月15日付。
- ・(編集日記)『福島民友』令和2年5月15日付。
- ・「県内施設を紹介」『福島民友』令和2年5月17日付。
- ・(BOOKカフェ)「郡山市立美術館長 鈴木誠一さん『捨ててこそ 空也』欲を捨て「空」になる」『福島民友』令和2年12月5日付。

寄稿

- ・新田量子「紙上美術館 香りと色、感性豊かに」『福島民報』令和2年5月15日付。
- ・田中有沙子「紙上美術館 自然の空気 想像して」『福島民報』令和2年5月26日付。
- ・鈴木誠一「紙上美術館 満ちあふれる生命力」『福島民報』令和2年5月29日付。
- ・富岡進一「紙上美術館 食器にこだわりを」『福島民報』令和2年11月6日付。
- ・中山恵理「三木宗策研究 日本近代彫刻史再考」美術館連絡協議会 2019年度海外研修派遣 美術館活動助成(報告集)2019年6月20日発行。

IV 作品収集・保存管理事業

1) 新収蔵作品・美術資料一覧

美術品の収集は、(1)イギリスの近代美術、(2)日本の近代美術、(3)郡山ゆかりの美術、(4)本(版)の美術、の4つの柱を基本方針として行っている。

令和2年度の収集状況は、購入4件、寄贈19件で、内訳は下表のとおりである。

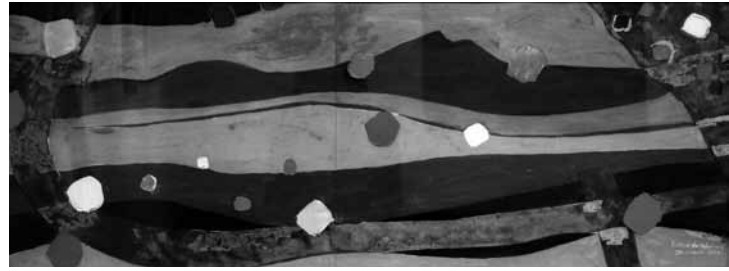
	油彩画	水彩画、素描画	日本画	版画	彫刻	工芸	計	美術資料
平成13年度まで	233	353	30	1,219	25	168	2,028	103
平成14年度	16	27	0	29	6	16	94	0
平成15年度	2	0	2	0	0	0	4	0
平成16年度	9	1	1	0	0	0	11	0
平成19年度	0	0	17	0	8	5	30	0
平成20年度	13	16	0	1	1	0	31	0
平成24年度	4	0	0	2	0	0	6	2
平成25年度	2	0	0	0	0	1	3	0
平成26年度	1	0	0	3	1	22	27	7
平成29年度	5	0	0	7	4	0	16	0
平成30年度	2	6	0	4	2	9	23	4
令和元年度	1	0	5	4	3	20	33	0
令和2年度	12	2	3	1	0	5	23	0
合計	300	405	58	1,270	50	246	2,329	116

■令和2年度新収蔵作品

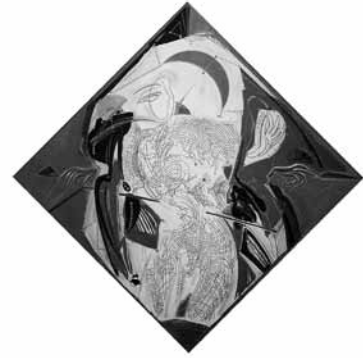
No.	作者名	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	取得形態
1	川村清雄	滝	1919(大正8)年	油彩・キャンバス	60.8×40.7	購入
2	土橋 醇	喜望の星(幻想の星)	1977(昭和52)年	油彩・紙	36.7×98.0	購入
3	田口安男	白いトルソー呼ー	2007(平成19)年	テンペラ・パネル	130.0×130.0	購入
4	ジョン・セル・コットマン(画) 漆原木虫(刻)	嵐の後の航海	1937(昭和12)年	木版・紙	22.5×34.5	購入
5	川村清雄	水郷		油彩・キャンバス	50.5×73.0	木村喜昭氏寄贈
6	土橋 醇	誕生	1970(昭和45)年	油彩・キャンバス	100.0×81.0	土橋千鶴子氏寄贈
7	土橋 醇	生きている夜	1973(昭和47-48)年	油彩・キャンバス	67.0×90.0	土橋千鶴子氏寄贈
8	土橋 醇	星の幻想B	1975(昭和50)年	油彩、鉄板・板	78.0×98.0	土橋千鶴子氏寄贈
9	土橋 醇	無題	1978(昭和53)年	油彩、鉄板・板	71.0×90.0	土橋千鶴子氏寄贈
10	田口安男	鎌・ひも・手	1956(昭和31)年	油彩・キャンバス	50.3×61.0	田口安男氏寄贈
11	田口安男	手繰り出す眼	1965(昭和40)年	油彩・キャンバス	53.0×80.3	田口安男氏寄贈
12	田口安男	波から焰へA	1987(昭和62)年	油彩、テンペラ・キャンバス	130.3×162.1	田口安男氏寄贈
13	田口安男	波から焰へB	1987(昭和62)年	油彩、テンペラ・キャンバス	130.3×162.1	田口安男氏寄贈
14	田口安男	波から焰へA 下図	1987(昭和62)年	鉛筆・紙	130.3×162.1	田口安男氏寄贈
15	田口安男	波から焰へB 下図	1987(昭和62)年	鉛筆・紙	43.0×55.5	田口安男氏寄贈
16	荒木寛畝	白鷺	1902(明治35)年頃	紙本着色／軸	131.3×51.5	齋藤哲生氏寄贈
17	渡辺晨畝	三聖人	1930(昭和5)年	紙本着色／軸	128.9×120.0	齋藤哲生氏寄贈
18	渡辺晨畝	鷹		紙本着色／軸	103.0×85.5	齋藤哲生氏寄贈
19	佐藤潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・青	1964(昭和39)年頃	宙吹き	20.0×13.0	ニッカウイスキー株式会社寄贈
20	佐藤潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・黄	1964(昭和39)年頃	宙吹き	20.0×13.0	ニッカウイスキー株式会社寄贈
21	佐藤潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・黒	1964(昭和39)年頃	宙吹き	20.0×13.0	ニッカウイスキー株式会社寄贈
22	佐藤潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・緑	1964(昭和39)年頃	宙吹き	20.0×13.0	ニッカウイスキー株式会社寄贈
23	佐藤潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・赤	1964(昭和39)年頃	宙吹き	19.8×13.0	ニッカウイスキー株式会社寄贈



1 川村清雄《滝》



2 土橋醇《喜望の星(幻想の星)》



3 田口安男《白いトルソー-呼-》



4 ジョン・セル・コットマン《嵐の後の航海》



5 川村清雄《水郷》



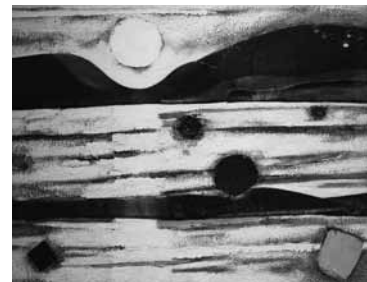
6 土橋醇《誕生》



7 土橋醇《生きている夜》



8 土橋醇《星の幻想B》



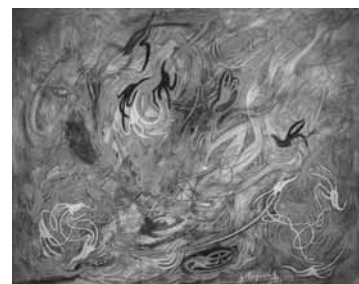
9 土橋醇《無題》



10 田口安男《鋏・ひも・手》



11 田口安男《手繰り出す眼》



12 田口安男《波から焰へA》



13 田口安男《波から焔へB》



14 田口安男《波から焔へA下図》



15 田口安男《波から焔へB下図》



16 荒木寛畝《白鷺》



17 渡辺晨畝《三聖人》



18 渡辺晨畝《鷹》



19 佐藤潤四郎《手吹きウイスキー
ボトル スーパーニッカ 青》



20 佐藤潤四郎《手吹きウイスキー
ボトル スーパーニッカ 黄》



21 佐藤潤四郎《手吹きウイスキー
ボトル スーパーニッカ 黒》



22 佐藤潤四郎《手吹きウイスキー
ボトル スーパーニッカ 赤》



23 佐藤潤四郎《手吹きウイスキー
ボトル スーパーニッカ 緑》

2) 収蔵作品貸出状況

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	西洋近代美術にみる神話の世界展	美術館「えき」 KYOTO	令和元年10月18日(金) ～11月17日(日)
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	『フラワー・ブック』より10点		群馬県立 近代美術館	令和2年2月8日(土) ～3月22日(日)
ジョン・フラクスマン	ホメロス『イリアッド』より8点		岡崎市 美術博物館	令和2年4月4日(土) ～5月17日(日)
	ホメロス『オデュッセイア』より16点		高知県立 美術館	令和2年5月30日(土) ～7月12日(日)
	『神統記、仕事と日々とヘシオドスの生きた時代』より8点			
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘	クールベと海展	山梨県立 美術館	令和2年9月11日(金) ～11月3日(火・祝)
ウィリアム・ギルピン	『風景6種』			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『イングランドの港』			
	ドーヴァー海峡			
	ウィットビー			
	デール			
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』IIより「ウェイマス、ドーセットシャー」			
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』VIより「プリマス海峡の入り口のミュー・ストーン、デヴォンシャー」			
ジョン・コンスタブル	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』VIより「ファルマス港、コーンウォール」		ふくやま 美術館	令和2年12月19日(土) ～令和3年2月21日(日)
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』XIIより「クロヴェリー湾、デヴォンシャー」			
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』14より「ポスカースル、コーンウォール」			
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』15より「フォークストン、ケント」			
	『ピクチャレスク-イングランド南海岸の描写』X, XI, XII 計3冊	パナソニック 汐留美術館	令和3年4月10日(土) ～令和3年6月13日(日)	
三宅克己	渋谷村天現寺附近の茶店	生誕150年 大下藤次郎と水絵の系譜展	群馬県立 館林美術館	令和2年10月10日(土) ～12月13日(日)
アルフレッド・イースト	荒れ模様			
	雨後の傘干し			
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布			
	雪の京都、祇園へゆく道			
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋			
中川八郎	早春			
	おぼろ月夜			
吉田博	村里の子供たち(岩戸)			
	風景			
吉田ふじを	夕暮			
	ウインザー橋	島根県立 石見美術館	令和2年12月25日(木) ～令和3年2月20日(土)	
	フロリダ			
土間				

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
大下藤次郎	蓮池	生誕150年 大下藤次郎と水絵の 系譜展	島根県立 石見美術館	令和2年12月25日(木) ～令和3年2月20日(土)
後藤工志	夏の川辺			
吉田博、中川八郎、 満谷国四郎、小杉 未醒、大下藤次郎、 石川寅治	『瀬戸内写生旅行』			
ジョン・コンスタブル	デダムの谷 ウェイマス湾 『イングランドの風景』より21点	コンスタブル展	三菱一号館 美術館	令和3年2月20日(土) ～5月30日(日)
南薫造	バーン・ジョーンズ「ミル」模写	没後70年南薫造展	東京ステーション ギャラリー	令和3年2月20日(土) ～4月11日(日)
	印度アグラの聖地			
	川筋の家			
	雪の日の東京		広島県立 美術館	令和3年4月20日(火) ～令和3年6月13日(日)
	瀬戸内海風景			
	浦の漁灯			
	平野			
	河べりから見た風景			
	教会堂			
	川べりの家		久留米市 美術館	2021年7月3日(土) ～8月29日(日)
	河と並木			
	風景			
	日没			
橋のある河				
ダンテ・ガブリエル・ ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	あやしい絵展	東京国立 近代美術館	令和3年3月23日(火) ～5月16日(日)
サー・エドワード・コー リー・バーン＝ジョーンズ	『フラワー・ブック』より7点		大阪歴史 博物館	令和3年7月3日(土) ～8月15日(日)

※会期は変更になっている場合があります。

3) 収蔵作品修復状況

◆ダンテ・ガブリエル・ロセッティ「マドンナ・ピエトラ」

技法材質：パステル・紙

制作年：1874年

寸法：91.5×58.1cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 支持体には経年による黄ばみがある。また、額縁入子に接していた部分が褐色化している。
- 人物頭部右側と、下辺中央に小さな支持体変形が生じている。
- 画面中央左右方向に支持体の継ぎ目がある。
- 擦れて毛羽立った箇所が散在する。
- 額縁の裏面には、かつて裏側に貼られていた紙がところどころに残存している。
- 厚い木製の裏蓋が使用されており、裏蓋中央にラベルが二枚貼られている。

修復内容

- 粉末消しゴム、刷毛を使用し、裏面を乾式洗浄。
- 低反射アクリル(オブティウム・ミュージウム・アクリル)、ベースマットはアーカイバルハニカムボードに新調。
- 中蓋をCXDプレミアムコルゲートに新調し、ステンレス製のT字金具で固定。
- ポリカーボネイト(レキサントインカーボ)の裏蓋へ新調し、ステンレスビス留め。
- 差し箱と黄袋新調。
- 作品は新調したベースマットに和紙ヒンジとカルボキシメチルセルロースで固定した。
- 旧額縁の裏板に接着されていたラベルは取り外し、和紙と生麩を用いて裏打ちした。

◆ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー「エディスタン灯台」

技法材質：版画用インク(エングレーヴィングとアクアチントの併用)・洋紙+和紙

制作年：不詳

寸法：21.05×31.3cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 洋紙に雁皮紙を貼り付けた澱粉糊が劣化し、周縁部には剥離が見られる。
- 窓マットに覆われていたマージン部分に褐色の斑状のしみが多数。また、マージン部分にゆるやかな放射状の支持体変形が見られる。
- 印刷部分の裏面は黄化しており、裏面上辺の両端に、旧ヒンジ紙が残っている。

修復内容

- 粉末消しゴム、刷毛、練りゴムを使用し、表面の埃汚れを除去する乾式洗浄を行った。
- 裏面上辺の両端に残っていた旧ヒンジを除去。
- 斑点状のしみに希アンモニア水を滴下した過酸化水素水を筆で注し入れ、部分的に漂白した。
- 精製水、希アンモニア水、エタノールを使用して水洗処置を行い、乾燥させて変形修正した。
- 雁皮紙の剥離箇所は、接着剤の注入できる周縁部のみメチルセルロースを用いて接着した。
- 和紙ヒンジとカルボキシメチルセルロースを用いて既存のBook型マットに固定した。
- 雁皮紙を接着している澱粉糊について、中央部分の粘着力は十分であったので現状維持とした。
- しみ抜き処置後にシミの戻りが観察されたため、今後も長期的な経過観察が必要。

◆アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ「鎌倉の茶店」

技法材質：水彩・紙

制作年：不詳

寸法：25.3×35.5cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 経年による紙の劣化と、上辺左から右辺中央にかけて緩やかな支持体変形がある。
- 上辺両端二箇所に台紙が接着されている。
- 描画部には経年による褪色とチョーキングが見られる。空の部分には擦れて剥落した箇所が散在する。
- 画面下半分に付着物が散見される。下辺中央左に厚みのある白い付着物がある。

○額縁には、上辺左側の金色部分に小さな剥落がある。

○裏蓋下辺中央にラベルが一枚貼られている。

修復内容

○メスにより絵具層に負担のかからない程度に付着物を除去。光沢のある付着物については、特に鑑賞上の問題はないと判断して現状維持とした。

○空の剥落箇所、メディウムによる光沢を避けるため水彩色鉛筆を削った粉末に水を加えて最小限の補彩を行った。

○和紙ヒンジとカルボキシメチルセルロースを用いて、新調したベース(アーカイバルハニカムボード)に作品固定。

○Book型マット(ミュージアムボードFAWNベージュ色)の新調。

○スペーサー(金色)、緩衝材(中性コルゲート)、泥足材新調。

○旧額縁の裏板に接着されていたラベル類を取り外し、和紙と生麩糊を用いて裏打ちし、Book型マットの裏面に中性両面テープで固定。

○グレージングを低反射アクリル(オプティウム・ミュージアム・アクリル)へ新調。

○ポリカーボネートの裏蓋(レキサソツインカーボ4mm)、黄袋新調。T字金具で額縁と作品固定。

◆諫山麗吉「甲州猿橋」

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：不詳

寸法：80.7×53.3cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

○ワニスが黄化し、作品の色調が黄色味を帯びている。また、不均一な光沢、白濁などが見られる。

○絵具の浮き上がりや剥落を抑えるため、旧処置にて水性の接着剤が厚く塗布されている。

○広範囲に絵具の細かな浮き上がりが見られ、亀裂が生じている(特に絵具の厚塗り部分、右下部分)。

○細かな剥落が多数あり、旧処置として剥落部に直接補彩が施されている。

○支持体の張りが緩くたわみが生じており、大きく波状に変形している。

○画布裏面・木枠に黴、また木枠に反り・歪みあり。

○額縁広範囲に虫食いが生じており、特に内部は木材が粉状化している。

○額縁のほぼ全体が補彩されているが、色調がまだらな状態。

修復内容

○浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。

○旧処置で塗布されていた作品四辺の接着剤を加温・加湿しながら除去。

○支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。

○支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVA371シートで接着。

○ストレッチャー式の木枠に仮張り、支持体の変形を修正。

○画面の洗浄(精製水)、旧ワニス軽減除去(ミネラルスピリット+エタノール)。

○木枠側面(左辺)角材を取り付け、幅を調整。下辺の木枠接合部に角材を取り付け、天地方向の長さを調節。

○絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。

○画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布した。

○充填整形部や乾燥亀裂が目立つ部分に修復用アクリル絵具で補彩。

○ダンマル樹脂ワニスを噴霧し、光沢を調整。

○額縁の虫食い箇所は膠水を注入し、さらにバラロイドB72とガラスマイクロバルーンの混合液を注入して強化した。

○額縁裏面に泥足を取り付け、剥落部の充填整形(エポキシ樹脂)・補彩(アクリル絵具)、吊り金具新調、レキサソポリカーボネート板を裏蓋として取り付け。

○ワニスの安定や光沢の変化、画布の張りや木枠の歪みの影響、額縁の虫食い部分の強度については要経過観察。

◆諫山麗吉「神戸近郊」

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：不詳

寸法：64.8×50.8cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

○ワニス黄化し、作品の色調が黄色味を帯びて見える。また、不均一な光沢、劣化による白濁が見られる。

○絵具の浮き上がりや剥落を抑えるため、旧処置にて水性の接着剤が厚く塗布されていた。

- 全体に亀裂。人物描写の周辺には損傷により生じた円形の亀裂あり。
- 下部に乾燥亀裂あり。人物描写の周辺は損傷し、画布の破れに至っている。
- 旧処置として損傷部分に当て布、充填、補彩が施されている。
- 支持体にはたわみが生じており、上部左右の角に張り皺が生じている。
- 木枠に反りとねじれが生じており、大きく歪んでいる。
- 額縁広範囲に虫食いが生じており、特に内部は木材が粉状化している。
- 額縁のほぼ全体が補彩されているが、色調がまだらな状態。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 旧処置で塗布されていた作品四辺の接着剤を加温・加湿しながら除去。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 旧当て布は除去し、支持体の破損部裏面に麻布の織糸を膠水で接着し、補強した。
- 支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVAシートで接着。
- ストレッチャー式の木枠に仮張りし、支持体の変形を修正。
- 画面の洗浄(精製水)、旧ワニス軽減除去(ミネラルスピリット+エタノール)。
- 木枠裏面の四つ角に、三角形に加工した板を取り付けて木枠の歪みを補正した。
- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布した。
- 充填整形部や乾燥亀裂の目立つ部分に修復用アクリル絵具で補彩。
- ダンマル樹脂ワニスを噴霧し、光沢を調整。
- 額縁の虫食い箇所は膠水を注入し、さらにパラロイドB72とガラスマイクロバルーンの混合液を注入して強化した。
- 額縁裏面に泥足を取り付け、剥落部の充填整形(エポキシ樹脂)・補彩(アクリル絵具)、吊り金具新調、レキサンポリカーボネート板を裏蓋として取り付け。
- 描かれた人物の上半身とその周囲に施された補彩と充填には劣化が見られなかったため、現状維持とした。
- 木枠の歪みが大きく、現在は歪みを抑えるよう額縁と固定しているため、木枠はほぼ平らな状態であるが、画布への影響が見られた場合には木枠の新調が必要。
- 額縁の虫食い部分が広範囲に及んでいるため強度について要経過観察。

◆藤島武二「がくの花」

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：1901(明治34年)

寸法：66.7×45.6cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- ワニスが黄化し、作品の色調が黄色味を帯びて見える。また、ワニス層全体に亀裂が生じている。
- X線画像からは、地塗り層から広範囲に剥落していた損傷箇所が確認できた。
- 旧処置では、オリジナルの絵具層を覆うようにオーバーリタッチされている。また、加筆によって剥落箇所を処置した様子である。
- オリジナルの画布の張りしろを四辺とも切断し、パネルに裏打ちされている。
- 虫糞が広範囲に付着している。
- 額縁の状態は良好。

修復内容

- 画面の洗浄(精製水)、旧ワニス軽減除去(ミネラルスピリット+エタノール)。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布した。
- 旧充填部や新たに充填した箇所、虫糞痕にアクリル絵具で補彩。
- ダンマル樹脂ワニスを噴霧し、光沢を調整。
- 吊り金具を新調し、レキサンポリカーボネート板を裏蓋として取り付けた。
- 旧処置で施された補彩はオリジナル性を損ねるものであったため、オリジナルの絵具層を見える形に改善し、新たに補彩し直した。

V 利用者数

美術館総利用者数 61,352人

1) 展覧会 56,376人

展覧会観覧者数

(人)

展覧会名	会 期	日 数	観覧者数
石田智子展	(3月1日～)4月1日～4月19日	17	2,435
「無言館」展	中止		
うるわしき美人画の世界	6月27日～8月23日	50	5,650
郡山の美術「今昔秘話展」	8月29日～9月27日	26	3,451
日本ガラス工芸の先達たち	10月10日～11月23日	39	3,095
みんなのミュシャ	12月12日～3月7日	67	23,427
企画展小計		199	38,058
常設展	令和2年4月1日～令和3年3月7日	257	1,511
企画展観覧券で常設展も観覧した人数			16,807
合 計			56,376

(内訳)

(人)

		企画展計	石田智子展	うるわしき 美人画の世界	郡山の美術 「今昔秘話展」	日本ガラス工芸 の先達たち	みんなの ミュシャ	常設展	企画展観覧券 で常設展も観 覧した人数	
有 料	個 人	一 般	18,232	847	1,896	853	955	13,681	594	7,921
		高・大	1,827	34	187	74	64	1,468	82	799
		65歳以上	6,981	918	1,635	725	571	3,132		3,073
		計	27,040	1,799	3,718	1,652	1,590	18,281	676	11,793
	団 体	一 般	115	3	3	3	4	102	4	49
		高・大	272	0	27	1	40	204	0	227
		65歳以上	124	1	64	1	56	2		58
		計	511	4	94	5	100	308	4	334
	友 の 会	一 般	361	15	103	62	50	131	26	136
		高・大	21	1	5	5	3	7	1	9
		65歳以上	336	27	98	58	50	103		120
		計	718	43	206	125	103	241	27	265
小 計		28,269	1,846	4,018	1,782	1,793	18,830	707	12,392	
無 料	高 齢 者							288		
	シルバー=友の会							6		
	一 般							62		
	高・大							18		
	中学生以下(個人)	1,986	74	303	84	90	1,435	71	701	
	中学生以下(団体)	1,310	0	119	606	481	104	276	1,121	
	減 免	149	0	0	149	0	0	0	149	
	ビラ下券	2,005	183	438	314	271	799	0	750	
	招 待 券	1,417	99	276	180	102	760	0	550	
	関 係 者	924	80	184	175	151	334	31	383	
	障 がい 者	1,018	96	185	73	100	564	26	450	
	療育/精神	497	23	55	45	64	310	14	141	
	同 伴 者	483	34	72	43	43	291	12	170	
	小 計	9,789	589	1,632	1,669	1,302	4,597	804	4,415	
合 計		38,058	2,435	5,650	3,451	3,095	23,427	1,511	16,807	

2) 教育普及事業 4,976 人

事業名	回数	参加者数	備考
講演会	3	140	
美術講座	3	123	
文化講座	1	14	講義&ワークショップ
ミュージアム・シアター	2	74	
ミュージアム・コンサート	2	488	
オンライン・アートライブ	1	75	
風土記の空	1	1,787	令和2年10月20日～11月23日
鑑賞学習対応(49校)	1	2,270	幼稚園1園、小学校22校、中学校9校、 高校2校、大学・専門学校他15校 計49校
博物館実習	1	5	令和2年9月9日～9月13日
合計	15	4,976	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためギャラリートークやワークショップ、風土記の丘の美術展は中止。講座等については感染症対策を講じた上で、回数や参加者数を限定しながら開催した。

3) 過去5年間の利用者数推移状況

年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総利用者数(人)		111,342	42,039	104,151	65,965	61,352
展覧会	展覧会観覧者数(人)	87,516	33,313	89,305	54,115	56,376
	企画展本数(本)	6	2	3	5	4
普及事業	普及事業参加者数(人)	19,036	8,726	14,846	11,850	4,976
	普及事業回数(回)	57	62	58	48	15

※令和2年度の企画展本数は、「石田智子展」(令和元年度事業)を除く。

4) 教育普及事業別参加者数の推移状況

年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
アート・トーク	参加者数(人)	593	239	395	248	令和元年度で終了
	回数	6	3	4	3	
講演会	参加者数(人)	493	143	482	376	140
	回数	5	3	4	5	3
文化講座 (令和2年度～)	参加者数(人)	—	—	—	—	14
	回数	—	—	—	—	1
美術講座	参加者数(人)	394	42	482	172	123
	回数	9	4	9	5	3
ギャラリートーク	参加者数(人)	499	66	208	470	新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため中止
	回数	17	4	8	18	
ワークショップ	参加者数(人)	197	253	107	160	新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため中止
	回数	7	10	4	4	
ミュージアム・ シアター	参加者数(人)	593	67	181	316	74
	回数	8	2	2	4	2
ミュージアム・ コンサート	参加者数(人)	180	150	630	0	488
	回数	1	1	2	0	2
ゲーティング・ イベント	参加者数(人)	0	0	0	222	0
	回数	0	0	0	4	0
風土記の丘の 美術展	参加者数(人)	9,410	3,335	5,431	4,304	新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため中止
	回数	1	1	1	1	
風土記の空	参加者数(人)	6,608	0	2,351	1,793	1,787
	回数	1	0	1	1	1
鑑賞学習対応	参加者数(人)	4,845	3,325	3,773	3,780	2,270
	受入れ校数	55	48	50	47	49
博物館実習	参加者数(人)	5	5	5	5	5
	受入れ校数	4	3	3	5	3
ジュニア・ インターンシップ	参加者数(人)	9	3	3	4	0
	受入れ校数	2	2	2	2	0

VI 管理運営

1) 関係法規・組織

郡山市立美術館条例

【設置】

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、市民の美術に関する知識と教養の向上を図り、文化の発展に寄与するため、美術館を設置する。

【名称及び位置】

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地130番地の2

【管理】

第3条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)は、郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、これを管理する。

【事業】

第4条 美術館の事業は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1)美術品その他美術に関する資料(以下「美術品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2)美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3)美術に関する展覧会、講演会、講習会及び映写会等を開催すること。
- (4)前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(平22条例78・一部改正)

【観覧料】

第5条 美術館の常設展(美術品等の常設展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第1に定める常設展観覧料を納入しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、常設展観覧料を無料とする。

(1)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する休日に観覧する場合

(2)次項に定める企画展を観覧する場合

2 美術館の企画展(常設展以外の展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第2に定める企画展観覧料を納入しなければならない。

(平10条例35・一部改正)

【撮影等の許可及び特別観覧料】

第6条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術品等の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める特別観覧料を納入しなければならない。

【観覧料等の不返還】

第7条 既納の常設展観覧料、企画展観覧料及び特別観覧料(以下「観覧料等」という。)は、これを返還しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を返還することができる。

(1)観覧又は撮影等をしようとする者の責めによらない理由により、観覧又は撮影等ができなかったとき。

(2)その他教育委員会が特別の理由があると認めるとき。

【観覧料等の免除】

第8条 市長は、公用又は公益上特に必要があると認めるときは、観覧料等の全部又は一部を免除することができる。

【入館の制限等】

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、教育委員会は、美術館への入館を拒み、又は退館させることができる。

(1)公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2)施設、設備又は美術品等をき損又は汚損するおそれがあると認めるとき。

(3)この条例及びこれに基づく規則に違反し、又はそのおそれがあると認めるとき。

(4)前各号に掲げるもののほか、管理運営上適当でないとき。

(平22条例78・一部改正)

【賠償責任】

第10条 施設、設備又は美術品等をき損、汚損、又は滅失した者は、教育委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し又は免除することができる。

(平22条例78・一部改正)

【美術館協議会】

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、美術館に郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から教育委員会が任命する。

3 委員の定数は、10名以内とし、その任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(平成24条例31・一部改正)

【職員】

第12条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

【委任】

第13条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成4年7月1日から施行する。ただし、第5条から第9条の規定は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成10年郡山市条例第35号)

この条例は、平成10年10月1日から施行する。ただし、第5条第1号の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則(平成13年郡山市条例第31号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年郡山市条例第25号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成22年郡山市条例第78号)

(施行期日)

1 この条例は、平成23年4月1日から施行する。(経過措置)

2 この条例の施行の日前に撮影等の許可を受けた者に係る特別観覧料の額については、なお従前の例による。

附 則(平成24年郡山市条例第31号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。(経過措置)

2 この条例の施行の際限にこの条例による改正前の郡山市立美術館条例の規定に基づく郡山市立美術館協議会の委員である者は、この条例による改正後の郡山市立美術館条例の規定に基づく郡山市立美術館協議会の委員とみなす。

附 則(平成30年郡山市条例第41号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1 【第5条関係】

(平10条例35・平13条例31・平22条例78・一部改正)
常設展観覧料

区 分	観覧料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき 100円	1人1回につき 70円
一 般	1人1回につき 200円	1人1回につき 150円

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 65歳以上の者は、無料とする。

別表第2 【第5条関係】

(平13条例31・平15条例25・平30条例41・一部改正)
企画展観覧料

区 分	観覧料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき1,500円の範囲内でそのつど市長が定める額	
一 般		

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 団体観覧料は、個人観覧料の10分の8に相当する額とし、10円未満の端数が生じた場合は、これを10円に切り上げる。

別表第3 【第6条関係】

(平22条例78・一部改正)

特別観覧料

区 分	観覧料	
	個人	団体
撮影	モノクローム	1点1回につき 1,600円
	カラー	1点1回につき 3,100円
模 写 模 造	1点1日につき	2,100円
熟 覧	1点1回につき	200円

備考

- 1 一双屏風は、一双以内を1点とする。
- 2 一揃えの卷子(巻物をいう。)は、一揃え以内を1点とする。
- 3 対幅は、対幅以内を1点とする。
- 4 写真撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

郡山市立美術館条例施行規則

【趣旨】

第1条 この規則は、郡山市立美術館条例(平成4年郡山市条例第29号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

【観覧券の交付】

第2条 郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、常設展観覧料を納入した者に対して郡山市立美術館常設展観覧券(第1号様式)を、企画展観覧料を納入した者に対してそのつど定める郡山市立美術館企画展観覧券を交付する。

【撮影等の許可】

第3条 美術品その他美術に関する資料の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、郡山市立美術館撮影等許可申請書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項に規定する撮影等を許可したときは、郡山市立美術館撮影等許可書(第3号様式)を申請人に交付する。

【観覧料等の返還】

第4条 条例第7条ただし書の規定により返還する観覧料等の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 観覧又は撮影等をしようとする者の責めにやらない理由により、観覧又は撮影等ができなくなった場合
当該観覧料等の全額

(2) その他教育委員会が特別の理由があると認めた場合
教育委員会が認める額

2 前項に規定する観覧料等の返還を受けようとする者は、郡山市立美術館観覧料等返還請求書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

【観覧料等の免除】

第5条 条例第8条に規定する観覧料等の免除は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 市(市の機関を含む。)が主催する事業の活動として常設展を観覧する場合常設展観覧料を全部免除

(2) その他教育委員会が観覧料等を免除することが適当と認める場合教育委員会が認める額

2 前項の規定により観覧料等の免除を受けようとする者は、あらかじめ郡山市立美術館観覧料等免除申請書(第5号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

3 教育委員会は、前項の規定による申請に基づき観覧料等の免除を決定したときは、郡山市立美術館観覧料等免除決定通知書(第6号様式)を申請人に交付する。

【開館時間】

第6条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、入館は午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めたときは、これを変更することができる。

【休館日】

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その翌日とする。)

(2) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

【遵守事項】

第8条 美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 施設、設備、美術品等をき損若しくは汚損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 所定の場所以外で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(3) 他人に危害又は迷惑をおよぼすおそれのある物品又は動物を持ち込まないこと。

(4) 風紀及び秩序を乱さないこと。

(5) その他職員の指示に従うこと。

【委任】

第9条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成6年教委規則第3号)

(施行期日)

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際、現に様式の規定に基づいて作成されている用紙は、この規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

附 則(平成15年教委規則第4号)

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前の様式の規定により作成されている用紙は、改正後の規則の様式の規定にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

郡山市立美術館協議会規則

【趣旨】

第1条 この規則は、郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)の会議運営について必要な事項を定めるものとする。

【招集】

第2条 協議会は、郡山市立美術館長(以下「館長」という。)が招集する。

2 会議開催の場所及び日時は、付議すべき事項とともに、あらかじめ委員に通知しなければならない。

【定例会及び臨時会】

第3条 協議会は、定例会及び臨時会とする。

2 定例会は年2回とし、臨時会は必要があるときに招集する。

【会長及び副会長】

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長及び副会長の任期は、2年とする。ただし、再選を妨げない。

【職務】

第5条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

【会議】

第6条 協議会は、委員の過半数で成立する。

2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長が決する。

【庶務】

第7条 協議会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の会議に必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規則は、平成4年7月1日から施行する。

郡山市美術品収集評価委員会設置要綱

【設置】

第1条 郡山市が美術品を収集するため、その適正な評価等を行うに当たり、有権者の意見を聴くために開催する郡山市美術品収集評価委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

【委員会の役割】

第2条 会議は次の事項について意見交換を行う。

- (1)美術品の選定評価に関すること。
- (2)美術品の寄託又は、寄贈に関すること。
- (3)美術品選定のための資料の収集その他専門的な事項に関すること。

【委員会の構成】

第3条 委員会の委員は、8名以内とし、美術に関する専門的知識を有する者のうちから教育長が依頼する。

- 2 委員の依頼期間は、2年以内とする。
- 3 委員会に座長を置き、委員の互選により定める。

【会議】

第4条 委員会の会議は、教育長が招集する。

- 2 会議は、座長が進行する。
- 3 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名する者が会議を進行する。

【庶務】

第5条 委員会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、昭和63年6月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和元年7月1日から施行する。

2) 名簿・組織（令和2年度）

郡山市立美術館協議会

◎会長 ○副会長

（任期：平成30年6月1日～令和2年5月31日）

- 鈴木 亨尚 郡山市立御代田小学校長
- 佐藤 士郎 郡山市立守山中学校長
- 矢森 健一 福島県立あさか開成高等学校長
- 馬場 典枝 FMいわきパーソナリティ
- 宗像 利訓 本郷焼・宗像窯9代目
- 高澤 俊郎 福島県立郡山支援学校講師
- ◎中村亜都子 学校法人尚志学園高等学校講師
- 荒木 康子 福島県立美術館学芸課長
- 瀬谷 賢次 福島交通株式会社郡山支社長
- 古川 文子 「幼稚園等新規採用教員研修」研修指導員

（任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日）

- 鈴木 裕之 郡山市立河内小学校長
- 半沢 一寛 郡山市立西田学園校長
- 源田 浩一 日本大学工学部情報工学科教授
- 馬場 典枝 FMいわきパーソナリティ
- 宗像 利訓 本郷焼・宗像窯9代目
- 高澤 俊郎 画家
- 斎藤由美子 白沢ふれあい文化ホール館長
- ◎荒木 康子 福島県立美術館副館長兼学芸課長
- 瀬谷 賢次 福島交通株式会社郡山支社長
- 目黒 朋子 (一社)教育のための科学研究所

郡山市美術品収集評価委員会

（任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日）

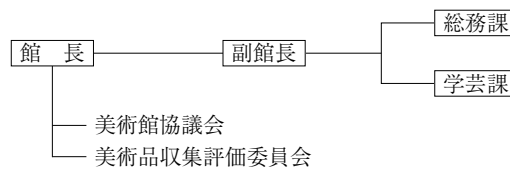
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長
- 古田 亮 東京芸術大学大学美術館准教授
- 早川 博明 前福島県立美術館長
- 猿渡紀代子 (公財)三溪園保勝会副理事長
- 吉田 尊子 岩手県立美術館学芸普及課長
- 濱崎 礼二 宮城県美術館副館長兼学芸部長
- 杉村 浩哉 栃木県立美術館主任研究員

唐澤 昌宏 東京国立近代美術館工芸課長

郡山市立美術館職員

- 館長 鈴木 誠一
- 主幹兼副館長兼総務課長 神 彰
- 総務課主査 田母神知恵
- 総務課主任用務員 佐々木直人
- 学芸課長 菅野 洋人
- 学芸課主任主査 中山 恵理
- 学芸課主任主査 杉原 聡
- 学芸課主任主査 永山多貴子
- 学芸課主任学芸員 富岡 進一
- 学芸員 田中有沙子
- 学芸員 新田 量子
- 学芸員 川上 恵理
- 学芸員 塚本 敬介

■組織図



3) 建築設備概要・平面図・面積表

■敷地面積	38,420.24㎡
[建築概要]	
■建築面積	3,776.52㎡
■建築床面積	6,848.37㎡
■駐車場面積	3,300㎡ 収容台数 乗用車123台 バス 8台
■構造及び規模	鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階
■仕上	
外壁	杉小幅板本実化粧型枠ホワイトコンクリート打放し
屋根	ステンレス鋼板フッ素樹脂加工
サッシ	アルミ電解二次着色
展示室壁	カーテンウォール爪かけバックマリオン方式ペアガラス(二面サンドブラスト加工)
展示室床	不燃クロス貼ペンキ拭取仕上げ
展示室床	木製フローリング(ホワイトオーク)
■設計	(株)TAK建築・都市計画研究所
■設計協力	
基本計画・ガラスデザイン	川上喜三郎
木製家具デザイン	(株)方圓館 坂本和正
サインデザイン	永原浄デザイン研究所 永原浄
造園	(株)和泉屋・石のアトリエ 和泉正敏
■施工	
主体工事	大林・東洋特定建設工事共同企業体
電気工事	(株)ユアテック郡山営業所
空調和建設工事	高砂・菱和特定建設工事共同体
情報防火設備工事	(株)ニノテック
給排水設備工事	東北設備工業(株)
昇降機設置工事	フジテック(株)仙台営業所
■工期	着工：1990(平成2)年12月18日 竣工：1992(平成4)年6月30日
■建築費	40億円
[設備概要]	
■電気設備	
受電	3相3線、6KV、50Hz
変圧器	電灯：単相3線、210/15V、100KVA×3 動力：3相3線、210V、500KVA×2、300KVA×2
蓄電池	シール形鉛蓄電池100AH/10HR
非常用発電機	ディーゼルエンジン228PS、出力3相200V、180KVA
照明設備	白熱灯、高輝度放電灯、蛍光灯、LEDスポットライト、直管式LED
■情報防災設備	
防災設備	自動火災報知機、防排煙、非常放送、誘導灯
防犯設備	ITV監視装置(監視カメラ、14型カラーモニター・四分割型)
その他	視聴覚設備、放送設備、中央監視設備

■空気調和設備

熱源設備

空冷ヒートポンプチラー(圧縮機50KW) 4台

暖房能力：524KW、冷房能力：724KW

水冷チラー(圧縮機40KW)

暖房能力：198KW、冷房能力：157KW

空調設備

4管式恒温恒湿制御方式(収蔵庫系統)、4管式再熱制御方式(展示室系統)

VAV方式(普及部門諸室系統)

外調機+ファンコイルユニット方式(事務管理諸室系統)

空調機+ファンコイルユニット方式(エントランスホール・ロビー系統)

その他

自動制御設備、換気設備、機械排煙設備

■給排水設備

給水設備

圧力給水方式 受水槽10㎡、副受水槽1.5㎡

給湯設備

電気温水器(貯湯量224ℓ、10KW)電気湯沸器(貯湯量40ℓ、4KW)

消火設備

屋内消火栓、連結散水設備、ハロンガス消化設備(収蔵庫)

■くん蒸設備

常圧・減圧兼用式4.0㎡、ミニガスベンベ脱着方式

■昇降機設備

乗用

750Kg,11人乗り(車椅子対応)

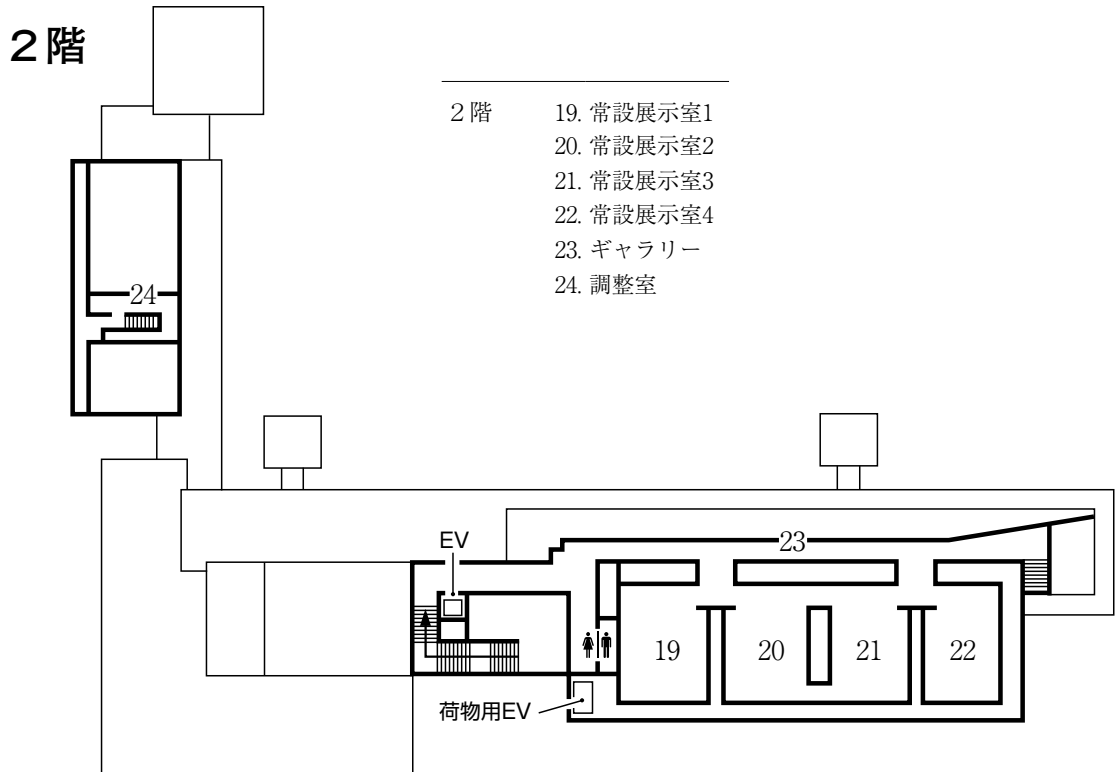
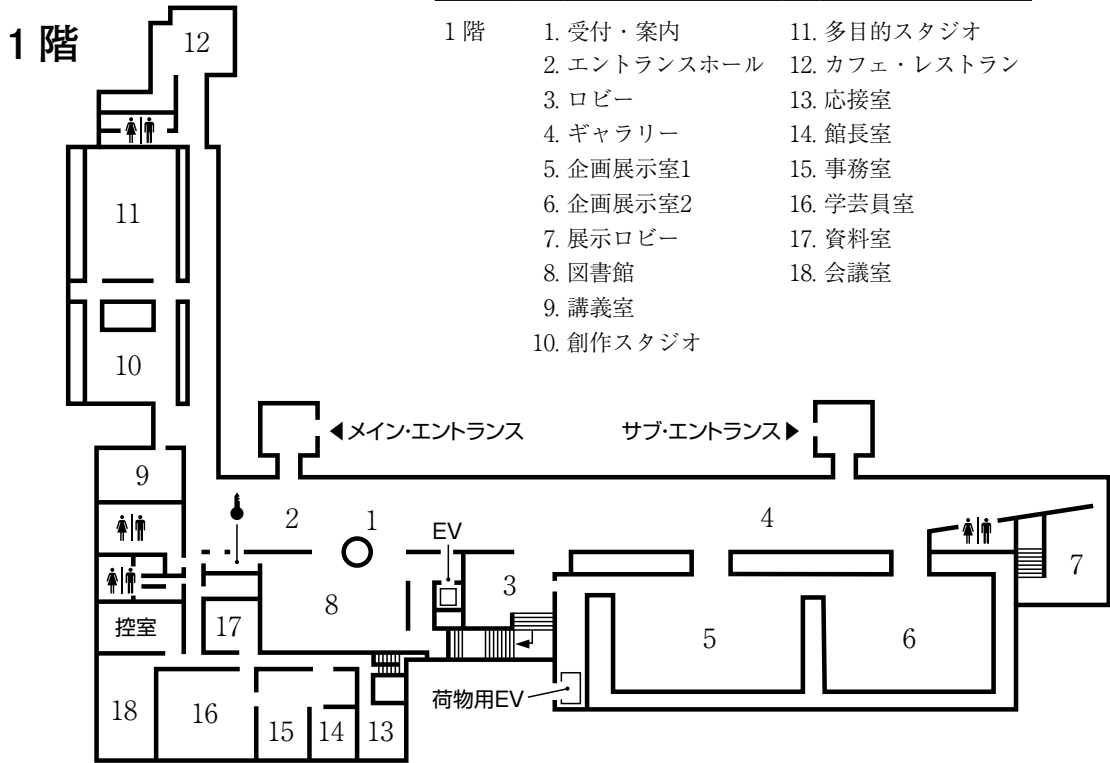
荷物用

3,000 Kg、油圧加速制御

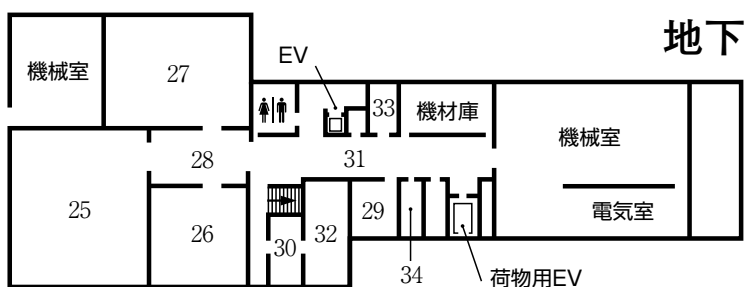
テーブルリフター

2,000 Kg

■平面図・面積表



- 地下
- 25. 収蔵庫1
 - 26. 収蔵庫2
 - 27. 収蔵庫3
 - 28. 収蔵庫前室
 - 29. 修復室
 - 30. 中央監視室
 - 31. 荷解場
 - 32. トラックヤード
 - 33. くん蒸室
 - 34. 清掃員室



部門名	面積	階	室名	面積
展示部門	2,330.38 m ²	2	常設展示室1~4	932.51 m ²
		1	企画展示室1~2、展示ロビー	1,333.24 m ²
		B1・1	器材庫、エレベーター前室	64.63 m ²
収蔵部門	1,040.28 m ²	B1	収蔵庫1~3	618.35 m ²
		B1	収蔵庫前室	61.48 m ²
		B1	器材庫	69.25 m ²
		B1	荷解場	238.71 m ²
		B1	くん蒸室	19.10 m ²
		B1	修復室	33.39 m ²
教育普及部門	570.34 m ²	1	多目的スタジオ	196.42 m ²
		1	創作スタジオ	122.40 m ²
		1	講義室	56.87 m ²
		1	図書室(ビデオコーナーを含む)	194.65 m ²
研究研修部門	117.45 m ²	1	学芸員室	117.45 m ²
管理部門	852.19 m ²	B1	中央監視室	24.22 m ²
		B1	機械室	520.43 m ²
		1	事務室	79.85 m ²
		1	館長室	32.48 m ²
		1	会議室	73.92 m ²
		1	応接室	38.10 m ²
		B1・1	控室	54.52 m ²
		1	資料室	28.67 m ²
サービス部門	702.62 m ²	1	エントランスホール	222.77 m ²
		1	ギャラリー	344.72 m ²
		1	ロッカールーム	16.69 m ²
		1	カフェ・レストラン	118.44 m ²
その他	1,235.11 m ²	B1・1・2	廊下、階段、便所、その他	1,235.11 m ²
計	6,848.37 m ²			6,848.37 m ²

4) 利用案内

■所在地

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2

Tel : 024-956-2200 Fax : 024-956-2350

E-mail : bijutsukan@city.koriyama.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.koriyama.lg.jp/bijutsukan/>



■開館時間

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)

■交通案内

●郡山駅から美術館まで約4km

●乗用車 駐車場(123台、バス8台収容・料金は無料)

●バス

郡山駅前5番のりばから『美術館経由東部ニュータウン行』乗車、「郡山市美術館」下車すぐ。(所要時間10分)



■観覧料

	常設展		企画展	
	個人	団体 (20名以上)	個人	団体 (20名以上)
一般	200円	150円	規模・内容等に応じて、その都度定めた額	
高大生	100円	70円		
65歳以上	無料			
中学生以下	無料			
障害者手帳をお持ちの方	無料(手帳を提示)			

